

## 東京帝国大学における中国人留学生 ——明治大正期（1899-1926 年）の入学者を中心に——

周 一 川

### 要旨

東京帝国大学に初めて中国人留学生が登場したのは 1899 年のことであり、1926 年までに少なくとも約 500 人（延べ人数 526 人、実数 507 人、農科大学・農学部の実科を含まない）が同大の各分科大学・学部

に学んだ。明治期の中国人留学生は、身分として選科生が圧倒的に多かった。選科生制度は、本科に入学する資格を持っていない留学生たちに東京帝大で学ぶチャンスを与えた。大正期に入ると本科生が増加し、留学生の身分構成は本科生中心となった。これは 1908-1922 年に実施された「五校特約」協定から誕生した「五校特約生」の入学がもたらしたことであった。彼らの帝大進学は 1912 年から十数年続き、中国人帝大留学の第一次隆盛期（第二次は 1930 年代半ば）を引き起こした。

明治大正期の中国は内憂外患に直面し、改革・革命運動は絶えず、帝政が倒れ、共和国が成立する激動の時期であった。当時の在日留学生たちは積極的に改革・革命活動に参加し、辛亥革命の勝利に重要な役割を果たした。彼らの功績はこれだけにとどまらず、留学によって得た近代知識を用いて共和国の建設及び近代化の発展にも大きな貢献をした。

東京帝大は日本のエリートを育成する教育機関であるのはもちろんのこと、中国の近代化人材を養成する重要な役割も担っていた。

キーワード：東京帝国大学；中国人留学生；日華学堂；京師大学堂；「五校特約」

### はじめに

筆者は、拙論「東京帝国大学における中国人留学生データの解析——昭和初期（1927-1937 年）の入学者を中心に——」<sup>①</sup>において、昭和前期を対象に東京帝国大学（以下東京帝大）の中国人留学生の人数、専攻、身分類別、出身校などを分析し、その全体像を浮き彫りにするとともにいくつかの点を明らかにした。

本稿はその研究の続編であり、前史にあたる明治大正期を対象とするものである。巻末に資料として掲載する「東京帝国大学中国人留学生名簿——明治 32—大正 15（1899-1926）年の入学者——」（以下「名簿」）は、『東京帝国大学一覧』・『東京帝国大学要覧』（以下『一覧』）各年版の「学生（及）生徒姓名」、「卒業生姓名」及び『東京帝国大学卒業生氏名録』<sup>②</sup>から抽出した留学生のデータをベースにして作成したものである。なお、『一覧』に掲載されていなかった留学生の出身省、出身校、学費別の情報及び一部の選科生、聴講生などは、他の資料から補足した。

本文の各表は、「名簿」に基づき作成したものであり、学科と身分などは「名簿」と同様の略称を使用した。グラフについては、付録「明治大正期（1899-1926 年）東京帝国大学各分科大学・学部の中国人留学生統計表」から作成したものであり、学生数は延べ人数である。同表は各分科大学・学部の年度

別、身分類別の人数を明らかにしており、本文では詳しく論じていない学部別の留学生の身分構成の特徴及びその変化もわかる統計となっている。

農科大学・農学部の実科は付属専門学校のような機関であり、明治大正期に200人を超える留学生を受け入れ、農学を学ぶ中国人留学教育に重要な役割を担っていた。実科の留学生については、紙幅の都合から、本稿ではなく別稿で詳細に分析することにする。

本稿が目指しているのは、「名簿」のデータに基づいて、明治大正期の東京帝大中国人留学生の全体像を描き出し、その特徴を解明することである。

なお、本稿では基本的に漢数字をアラビア数字に、元号を西暦とし、旧字は新字とした。

## 一．留学生受け入れ方針の変化と留学生の実態

明治期東京帝大の留学生の受け入れについて、『東京大学百年史 通史二』（以下『百年史』）は、「摘要」<sup>(3)</sup>などの当時の関連資料を分析し、「制度的には本邦学生優先の立場から、東京帝国大学自身がきわめて消極的であった」<sup>(4)</sup>と結論づけている。

### 1. 各分科大学の留学生受け入れ方針とその変化

「摘要」（1905年5月20日付）は、文部省次官の「清国人等ノ直轄学校入学希望者収容人員並設備等ニ関スル取調方」という照会への回答であり、各分科大学の意見をまとめたものであった。具体的な内容を見ると、各分科大学の間で温度差が感じられる。工科大学の「外国人ノ入学志望者ヲ収容スルノ余地全然之レナシ」に対して、法科大学と文科大学は「正確ナル収容予定員数ハ予メ定メ難シ、但欠員アル場合ニ於テ相当ノ資格ヲ有スルモノハ入学セシムヘキ見込、特別ノ設備ヲナサズ」というものであった。工科大学は収容の余地がないというのに対して文系の二つ分科大学は、条件付きで受け入れる姿勢であった。医科と農科大学は、それぞれ選科生と実科生の入学について「差支ナシ」と回答したが、本科生などについては明確にできなかった。理科大学は、規定の収容人員を超過しない場合に学力認定で認められる者の入学は差し支えないが、「職員ノ増加、設備ノ充実ハ実際ノ必要ヲ生シタル時ニ至リ回報スヘシ」との但し書きを付した。

『百年史』に記されているように、「きわめて消極的」な方針は、1907-1908年ごろに転換した。1906年10月の評議会では清朝政府からの東京帝大に毎年高等学校卒業生30人を受け入れてほしいという要望は否決されたが、その後の1907年7月に再度協議され、1908年12月1日の評議会では、中国人学生受け入れについて文部次官より照会された案が承認された。その案は「……高等学校卒業生ト同等ノ学力アリト認定セラレタルモノ」、かつ「本邦人志望者ヲ収容シテ尚欠員アル場合ニ限り」入学を認めるという厳しい条件付きのものであったが、これにより留学生の「帝国大学までの正規のルートが開かれることとなった」<sup>(5)</sup>。

実際の留学生本科生の受け入れ状況からもその転換期の変化がはっきり見てとれる。法科大学は1906年まで第一高等学校（以下、一高）卒業生の留学生も本科生ではなく選科生として受け入れていたが、1907年に初めて一高卒留学生4人を本科生として受け入れた。その後、在学中の一高卒選科生の身分を本科生に変更した。留学生受け入れの「余地全然之レナシ」であった工科大学も1908年に2人の留学生本科生を迎えた。

一方、留学生が東京帝大に入るは、本科生以外に選科生、聴講生や医学部の専攻生などの選択肢もあった。定員制限が厳しい本科生と異なり、定員制限が明確に定められていない選科生などの受け入れは、後述するようにむしろ「積極的」といえるものであった。

## 2. 人数の変動から見る留学生の実態

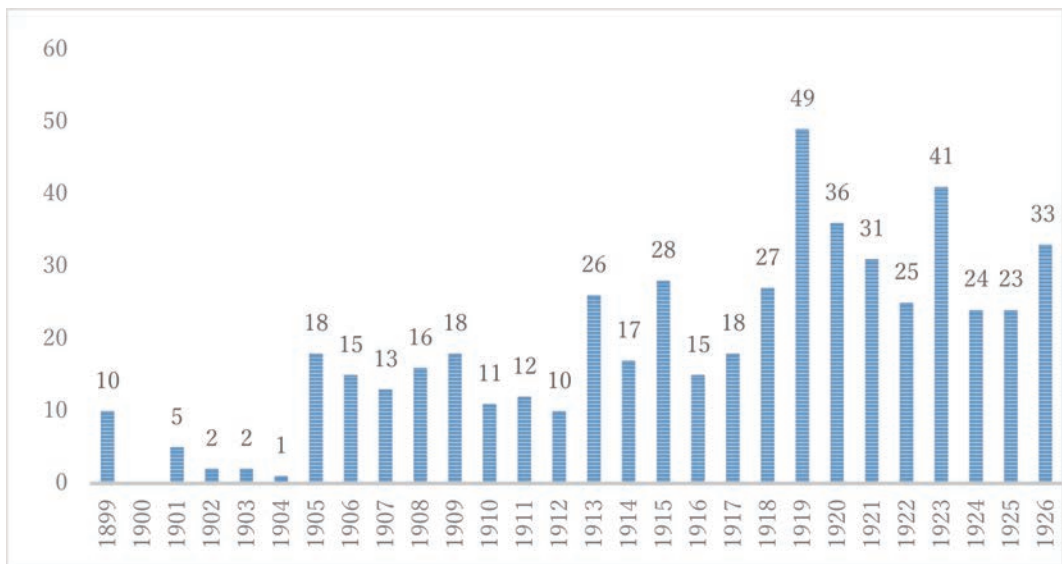
中国人の帝国大学留学は 1899 年から始まったが、初期の帝大志望者の進学先は東京帝大に集中していた。

### (1) 中国人留学生人数の推移

グラフ 1 は、1899-1926 年に東京帝大に入学した中国人留学生の年度別の人数（農学部実科を含まない）であり、合計 526 人（延べ人数）であった。

グラフ 1 からわかるように、明治期の留学生入学者数は年度により数人から十数人程度であったが、大正期に入ると 20 人を超える年度が多く、入学者数が一番多いのは 1919 年の 49 人であった。

グラフ 1 東京帝国大学中国人留学生の各年度入学者数（1899-1926 年） 単位：人



526 人の中には二つ以上の分科大学・学部に入学者が 18 人（うち 1 人は三つの分科大学に）いたため、この時期の留学生の実数は 507 人である。

### (2) 「五校特約生」の進学

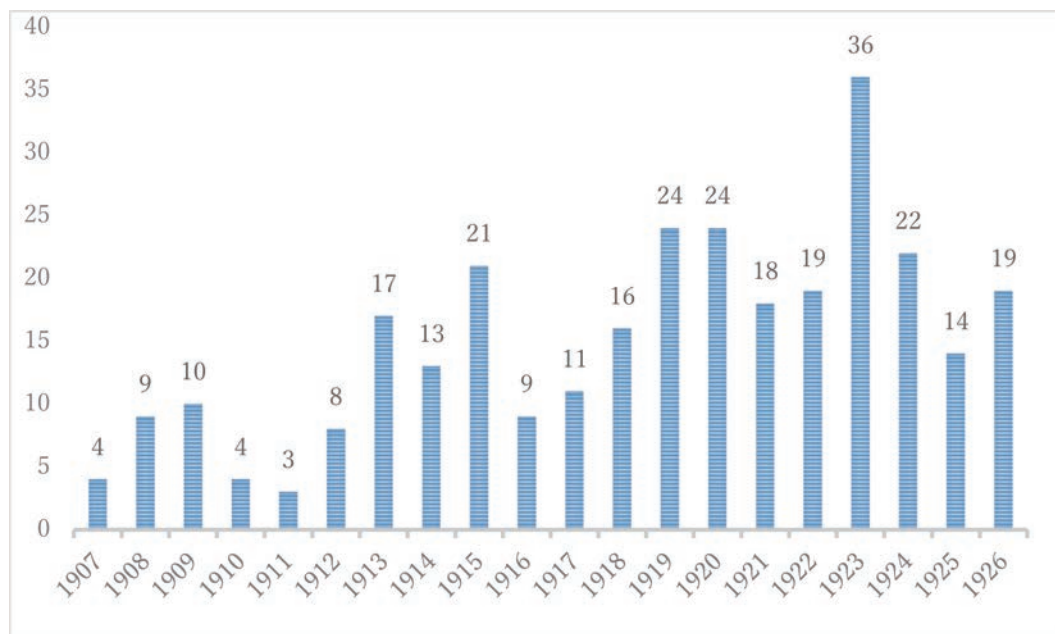
グラフ 1 からわかるように、1913 年に中国人留学生の人数は初めて 20 人を超え、その後、波はあっても増加傾向であった。それは、1908 年からの「五校特約」協定の実施と深く関わっていた。

「五校特約」とは、1908-1922 年の 15 年間に、日本の 5 校（第一高等学校、東京高等師範学校、東京高等工業学校、山口高等商業学校、千葉医学専門学校）が、毎年合計 165 人の官費留学生を受け入れるという日中両国の間で取り決められた留学生教育協定である。「五校」の中では一高が中心的な存在であった。当時の留学生たちは、一高の特別予科に合格できれば帝国大学へ進学する門戸が開かれ、日本人と同じようにエリートコースのスタートラインに立つこととなった。

最初の「五校特約生」は、1908 年から 4 年間の教育（特設予科 1 年・一高～八高 3 年）を受け、1912 年頃に帝国大学に進学する時期を迎えた。大正期帝国大学における中国人留学生増加の主な要因は、「五校特約生」による進学である。

「五校特約生」はほとんど本科生として入学したため、グラフ2からもわかるように、1913年から東京帝大の本科生入学者が著しく増加した。1922年以後は「五校特約」が終了したので、その後の新たな留学生の派遣も中止されたが、まだ在学中の「五校特約生」の卒業と帝大進学は1923年以後も数年続いた。

グラフ2 中国人留学生本科生の各年度入学者数（1907-1926年） 単位：人



「五校特約生」が帝大に進学することは、中国人の第一次帝大留学隆盛期を引き起こしたのである。この隆盛期は本科生を中心としたものであり、1930年代半ばの第二次帝大留学隆盛期の留学生の身分構成が大学院生と専攻生が中心<sup>(6)</sup>であったのとは、大いに異なった。すなわち、1922年に「五校特約」が終了し、本科生として東京帝大に入学できる資格を持つ留学生は急激に減少したが、1920年代後半に東京帝大は、中国の大学卒業者に対して大学院入学の資格を認めたため、留学生の大学院生が著しく増加した。また、東京帝大の医学部は昭和期に数多くの留学生専攻生を受け入れた<sup>(7)</sup>。第二次隆盛期の中心となったのは、一番数の多かった各帝大の専攻生や東京帝大の大学院生であった。

## 二. 早期の留学生たち

『一覽』の「学生（及）生徒姓名」記録によると、東京帝大最初の留学生は、1897年に朝鮮から来た安慶善（農科大学選科 農学科乙科）<sup>(8)</sup>である。その翌年、1898年には韓国（同年朝鮮は国名を韓国と改めた）留学生2人（法科大学選科 法律学科；農科大学選科 農学科乙科）と英領インド留学生2人（2人とも工科大学選科 採鉱及冶金学科）の合計4人の留学生がおり、彼らは法、農、工科大学の選科生であった<sup>(9)</sup>。1899年は中国9人、韓国2人、英領インド2人、フィリピン1人の合計14人（全員選科生）<sup>(10)</sup>の留学生が在籍していたことも確認できた。『一覽』には聴講生などが収録されていないため、聴講生の情報が確認できないが、幸いにも東京大学文書館所蔵「本邦留学満洲国及中華民国学生ノ

帰国後ニ於ケル状況調 調査掛」<sup>(11)</sup>により、1899年の農科大学に中国人の聴講生が一人在籍していたことが判明した。すなわち、1899年の東京帝大の中国人留学生人数は10人であった。

## 1. 日華学堂からの留学生

日華学堂は、高楠順次郎によって1898年に設立された中国人留学生のための教育機関である。日華学堂の留学生に関しては、実藤恵秀が『中国留学生史談』<sup>(12)</sup>などの著作で概論している。近年、欒殿武・柴田幹夫編著の『日華学堂とその時代 中国人留学生研究の新地平』（武蔵野大学出版会、2022年）によって、日華学堂に関する研究は大いに進展した。同書は10人の研究者による最新の研究成果をまとめただけでなく、日華学堂研究に欠かせない基礎的資料『日華学堂日誌』なども収録している。本節では、東京帝大側の資料に基づき、日華学堂から東京帝大に進学した留学生たちの在籍期間などの状況についていくつかの補足をしておきたい。

### (1) 東京帝大最初の中国人留学生

東京帝大最初の中国人留学生は1899年に日華学堂から入学した10人であった。胡穎の「日華学堂の経営及び経費管理」<sup>(13)</sup>は、『日華学堂日誌』の記録から10人の留学生が東京帝大に入学したこと及び留学費用について論じている。東京帝大側の資料からも10人の在学が確認できた。

当時日華学堂に在籍していた留学生は26人<sup>(14)</sup>であり、求是書院（杭州）、南洋公学（上海）、北洋大学堂（天津）と北洋水師学堂（天津）から派遣された官費生がほとんどを占めた。1899年に東京帝大に入学したのは、全員北洋の学堂から派遣された留学生であった。

表1 東京帝国大学の1899年入学の中国人留学生

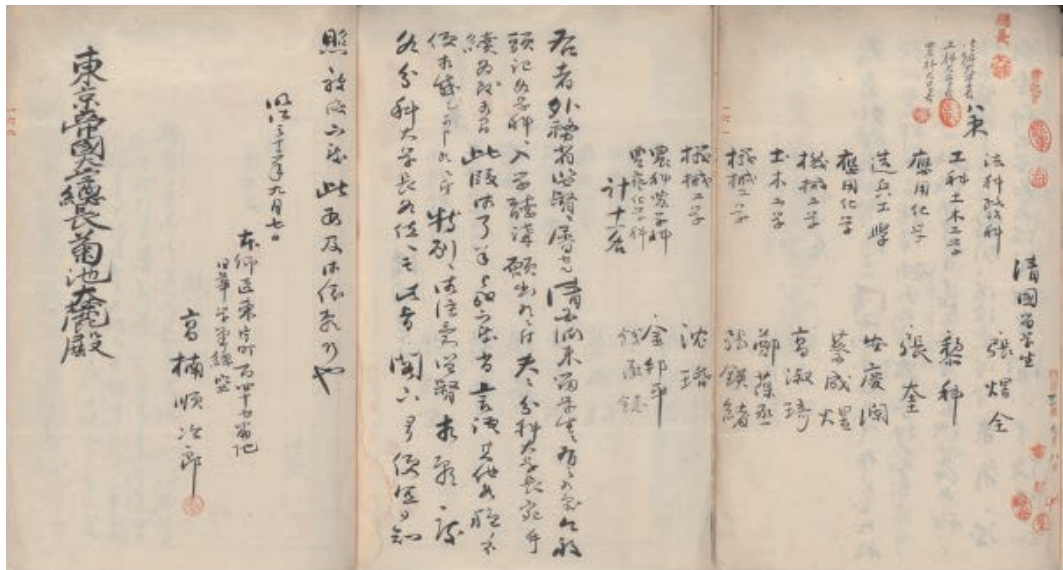
	氏名	省籍	分科大学	学科	身分	在籍年度	備考
1	張煜全	広東	法	政治	選	1899	
2	黎 科	広東	工	土木	選	1899	唐才常蜂起で刑死
3	鄭葆丞(亟)	福建	工	土木	選	1899	唐才常蜂起で刑死
4	沈 琨	直隸	工	機械	選	1899-1902	
5	張鎡緒	直隸	工	機械	選	1899-1902	
6	高淑琦	浙江	工	機械	選	1899-1902	
7	安慶瀾	直隸	工	造兵	選	1899	唐才常蜂起で刑死
8	張 奎	江蘇	工	應用化学	選	1899-1902	
9	蔡成煜	直隸	工	應用化学	選	1899	唐才常蜂起で刑死
10	金邦平	安徽	農	農	聴	1899	1900年東京専門学校へ

日華学堂の留学生入学に関しては『一覽』の記録以外に、当時の日華学堂総監高楠順次郎より東京帝大総長菊池大麓宛の書簡（写真1）が東京大学の文書館に保存されている。

当時の新年度の始まりは9月11日（1919年まで）であったため、この書簡は9月8日とその直前に出されたものであった。書簡によると、当初入学を申請した人数は11人であった。そのうち農学専攻の銭承詒は、実際は東京帝大に入学せず、一高に入学した。表2でわかるように、銭は一高で一年勉強した後、東京帝大の法学部に入学した。



写真 1



出典：「日華学堂総監ヨリ清国留学生張煥全外十名法科，政治科其他各学科へ入学聴講願出ニ付右監督方依頼」明治 32 年 9 月 8 日，コード：S0003/21/0038。東京大学文書館所蔵。

## (2) 日華学堂から一高を経て東京帝大に進学した留学生

1899 年に東京帝大に 10 人の中国人留学生が入学したのとはほぼ同時期，日華学堂の 8 人の留学生（汪有齡，胡昶泰，呉振麟，章宗祥，錢承鋌，陳槻，何燭時，陸士芬）が一高に入学した<sup>(15)</sup>。その 2 年後の 1901 年に呉振麟，章宗祥，錢承鋌の 3 人が東京帝大法科大学に入学した。陳槻（1902 年）と何燭時（1903 年）は一高の大学予科を卒業<sup>(16)</sup>した後工科大学に進学している。

表 2 一高を経て東京帝国大学に入学した日華学堂の留学生

氏名	省籍	分科大学	専攻	身分	在籍年度	備考
呉振麟	浙江	法	政	選	1901-1903	
章宗祥	浙江	法	政	選	1901-1902	
錢承鋌	浙江	法	政	選	1901-1903	
陳槻	浙江	工	造兵	選	1902-1905	
何燭時	浙江	工	採鉱及冶金	選	1903-1905	1906. 7 卒

日華学堂から東京帝大に進学した留学生の中から，東京帝大初の中国人卒業生（何燭時）が誕生した。附録の「名簿」からわかるように，選科生の身分で卒業したのは何燭時だけであった。東京帝大の「選科規程」に「選科生ハ正科生ト共ニ試験ヲ受ケ正科生昇級の格ニ合フ者ハ願ニ依リ分科大学ヨリ証書ヲ与フ」<sup>(17)</sup>という規定がある。おそらく何燭時は本科生と共に試験を受け，「正科生昇級の格」となって卒業できたと考えられる。

## (3) 在学中とその後の留学生たち

表 1 にあるように東京帝大に一年しか在籍しなかった 6 人の学生中，黎科，鄭葆丞，安慶瀾，蔡成煜

の4人は、1900年夏に「唐才常蜂起」に参加した。当時8カ国連合軍が清国に出兵し、政局は極めて混乱に陥っていた。唐才常（1867-1900）は維新を支持する光緒皇帝を擁立する「勤王蜂起」を密かに準備していたが、結局失敗に終わり、唐をはじめとする20人が清朝政府に逮捕されて処刑された。その中には上述の4人が含まれていた<sup>(18)</sup>。王鼎は「日華学堂と自立軍蜂起——「庚子革命烈士之墓」を訪ねて」<sup>(19)</sup>の中で唐才常蜂起について詳細に論じている。

黎科ら4人は日華学堂の出身であったが、蜂起に参加した1900年夏にはすでに東京帝大の選科生であったことが今回の名簿整理でわかった。辛亥革命ならびにその序章と位置付けられる各地の蜂起では、数多くの留学生が参加し、改革・革命運動に命を捧げた者も少なくない。上述の4人は、留学生最初の犠牲者であったのだろう。

他方、日華学堂から東京帝大に進学した留学生の多くは、留学中に積極的に社会活動（勵志会などの留学生組織の成立、翻訳・通訳活動<sup>(20)</sup>）に参加し、その中にはリーダー的な役割を果たした者も複数いた。

## 2. 京師大学堂から一高を経て東京帝大に進学した留学生

京師大学堂の留学生に関しては、薩日娜の「旧制第一高等学校に学んだ初期京師大学堂派遣の清国留学生について」<sup>(21)</sup>という研究がある。この論文は京師大学堂の留学生派遣の背景や彼らの学習状況と進学先、帰国後の行方などについて詳述している。ただ、彼らが東京と京都の両帝大に入学してからの実態についてはほとんど言及していない。近年、東アジア藝文書院ウェブサイトのプロジェクトページ「一高中国人留学生と101号館の歴史展（2）」<sup>(22)</sup>によって新たな資料が見つかった。これらの資料によって、京師大学堂派遣の留学生の一高における留学生生活に関するいくつかの側面が明らかになった。しかし、その焦点は彼らが一高に在学していた期間であるため、その後の進学先の状況に関してはほとんど触れられていない。

筆者は、拙論「京都帝国大学における中国人留学生——明治大正期（1903-1926年）の入学者を中心に——」<sup>(23)</sup>において、京師大学堂から一高を経て京都帝国大学に進学した留学生たちの状況をすでにまとめている。本節では、京都帝大との比較として、資料「名簿」のデータにより東京帝大に進学した者の在籍状況などを明らかにしたい。

「狩野亨吉文書」の記録にある名簿によると、京師大学堂の留学生は次のとおり（○印は私費留学生）36人である<sup>(24)</sup>。

1. 杜福垣	10. 蔣履曾	19. 王曾憲	28. ○施恩曦
2. 余榮昌	11. 王舜成	20. 屠振鵬	29. 劉成志
3. 景定成	12. 鍾賡言	21. 張耀曾	30. 朱溪
4. 範熙壬	13. ○陳繼鵬	22. 黃德章	31. ○王蔭泰
5. 席聘臣	14. 吳宗栻	23. 朱猷文	32. ○王運震
6. 黃芸錫	15. 周宣	24. 何培琛	33. 陳治安
7. 陳發檀	16. 顧德隣	25. 史錫綽	34. 曾儀進
8. 王桐齡	17. 朱炳文	26. 馮祖荀	35. 蘇振潼（蘇振潼）
9. ○葉克敦	18. 成憲	27. 劉冕執	36. 唐演

36人中28人は、一高を経てそれぞれ東西両帝大に進学している。下線付きの10人は京都帝大に進学した者であり、今回の名簿整理により19人（波線付き）が東京帝大に進学したことが判明した。蘇振潼は1908年に東京帝大に入学したが、1910年に京都帝大に移籍し、1915年までに京都帝大に在籍した。

表3 東京帝国大学に進学した京師大学堂の留学生

	氏名	省籍	分科大学	専攻	身分	在籍年度	卒業年度	備考
1	劉成志	江蘇	法	法→政	選	1905		一高速成学級
2	唐 演		法	法	選	1905-1908		一高速成学級
3	劉冕執	湖南	法	法	選	1906-1908		一高延長学級
4	鐘賡言	浙江	法	政	選→本	1906-1910	1910	一高延長学級
5	余榮昌	浙江	法	法	本	1907-1910	1910	一高卒
6	朱 深	直隸	法	法	本	1907-1911	1911	一高卒②朱濤
7	陳發檀	広東	法	政	本	1907-1910	1910	一高卒
8	張耀曾	雲南	法	政	本	1907-1913	1913	一高卒
9	陳治安	広東	法	政	選→本	1907-1910	1910	一高卒
10	王曾憲	江蘇	医	医	本	1908-1914	1914	一高卒
11	施恩曦	江蘇	工	土木	本	1908-1912	1912	一高卒
12	王桐齡	直隸	文	哲・東洋史	本	1908-1912・ 1921	1921	一高卒, 10年後再入学
13	蘇振潼	江蘇	理	物	本	1908-1909		一高卒, 1910年京都帝大に
14	史錫綽	四川	理	物	本	1908-1909		一高卒
15	景定成	山西	理	化	本	1908-1909		一高卒
16	王舜成	江蘇	農	農	選→本	1908-1911	1911	一高卒
17	黃藝錫	江蘇	農	農芸化	選→本	1908-1910		一高卒
18	朱炳文	山東	農	農芸化	選→本	1908-1912	1912	一高卒
19	成寓(雋)	蒙古	農	農芸化	選→本	1908-1911	1911	一高卒

注：備考欄の「一高速成学級」は一高で1年学んだ後東京帝国大学または京都帝国大学へ進んだことを、「一高延長学級」は一年勉強し、二年目に一高の1年に編入したことを意味する（鶴田奈月「清国留学生の学業」展示品概要「一高中国人留学生と101号館の歴史展（2）」東京大学東アジア藝文学院ウェブサイト <https://www.eaa.c.u-tokyo.ac.jp/projects/first-high-school-materialsarchive/exhibition-101-history-2/>）。

表3の19人の留学生中、付番1-4の4人以外の15人は、すべて一高を卒業している<sup>(24)</sup>。明治期の農科大学では、一高卒の留学生もすぐに本科生とはならず、選科生からスタートし、その後本科生となったようである。表3からわかるように、一高卒の東京帝大留学生は卒業率が高く、15人中11人が卒業した。卒業できなかったのは、理科大学の3人と農科大学の1人だけであった。付番4の法学部の鐘賡言は、一高の卒業生ではなかったが、1910年に選科生から本科生に身分を変更し、卒業している。

今回の調査結果は、薩日娜の研究がまとめた入学先<sup>(25)</sup>とはかなりずれがあり、東京と京都両帝大に進学したメンバーと人数だけではなく、進学した時期やそれぞれの専攻も一致しない部分があった。薩は東京大学第一高等学校関連文書『自明治三十六年至明治四十五年外国人入学関係書類 第一高等学校』という資料を根拠にし、京師大学堂留学生のうち5人は京都帝大に、他28人は東京帝大に進学したとまとめている。しかし、両帝大の「名簿」によると、京師大学堂出身の留学生は、京都帝大に10人、東京帝大に19人（うち1人はその後京都帝大に転学）、合計28人が両帝大に進学したことになる。

京師大学堂が派遣した留学生たちの中には辛亥革命で活躍した人物が複数いた。彼らの帰国後の行方



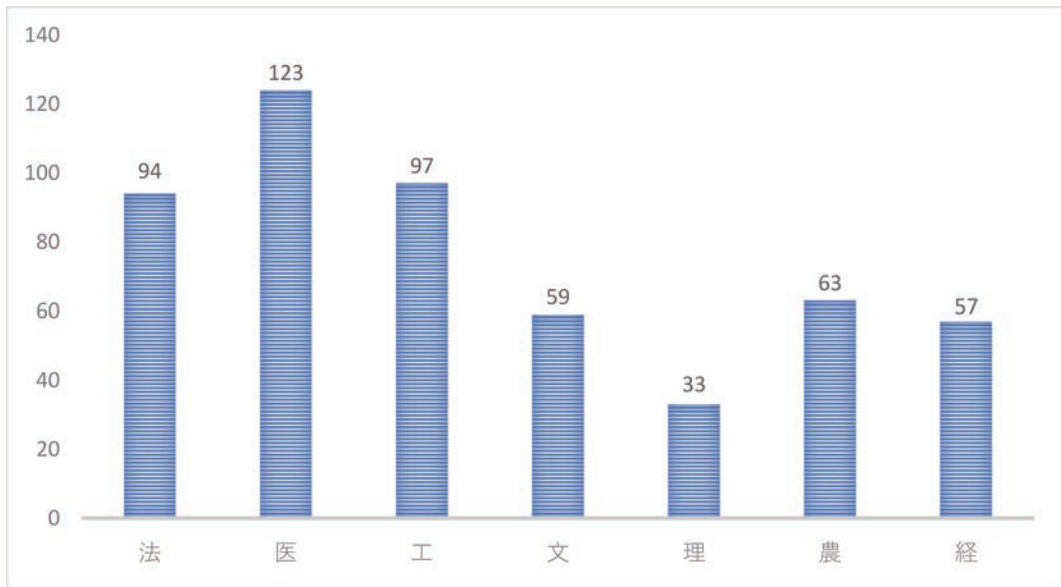
や各分野での貢献などについては、薩日娜の研究<sup>(26)</sup>が詳しい。

### 三. 専攻の分布及び二つ以上の分科大学・学部在籍した者

#### 1. 専攻の分布

資料「名簿」によると、1899-1926 年の間に東京帝大の七つの分科大学・学部（法，医，工，文，理，農，経）に入学した中国人留学生の延べ人数は 526 人であった。

グラフ 3 各分科大学・学部の中国人留学生数（1899-1926 年） 単位：人



グラフ 3 からわかるように、医科大学・医学部の留学生が 123 人と一番多く、次は工科大学・工学部 97 人、法科大学・法学部は 94 人であり、90 人を超えた。一番少ないのは理学部で、33 人しかなかった。医科大学・医学部の留学生が多かった理由は後述するように、留学生選科生を数多く受け入れたためである。

理系と文系で分けてみると、理系の医，工，理，農が 316 人、文系の法，文，経が 210 人であり、理系の人数が多かった。

#### 2. 二つ以上の分科大学・学部在籍していた留学生

1899-1926 年の入学者のうち 18 人は、転部あるいは卒業後他分科大学・学部へ再入学し、二つ以上の分科大学・学部在籍した（うち 1 人は三つの学部）。

1919 年、東京帝大に経済学部が新設された。それは法科大学（1919 年法学部に改編）から経済学科と商業学科が分離し、設立された学部であった。これにより法学部の経済・商業学科の学生は、経済学部へ転部した。表 4 からわかるように、経済学部の新設により転部した学生は 6 人（うち 1 人は大学院生）であった。

また、一つの学部を卒業した後、他学部（大学院を含む）に再入学した者は 8 人であった。そのうちの 1 人である張操は、1924 年 4 月に経済学部を卒業した後、法学部に入り、1925 年 3 月に同学部を卒

表4 東京帝国大学中国人留学生の転部生と再入学者リスト

	氏名	分科大学・学部	身分	在学期間など		転部・再入学先	身分	在学期間など	備考
1	林大勲(勲)	理(14)	本	1914	→	工(41)	本	1915-1917, 卒	分科大学に転学
2	羅 鼎	法(59)	本	1915-1917, 卒					
			院	1918	→	経(7)	院	1918-1919	新学部の設定による転部
3	周宏平	法(60)	本	1915-1918	→	経(1)	本	1919-1920, 卒	同上
4	費敏士	法(64)	本	1917-1918	→	経(2)	本	1919-1920, 卒	同上
						経(2)	院	1921	
5	郭 煥	法(67)	本	1918	→	経(3)	本	1919-1923	同上
6	韓乘端	法(68)	本	1918	→	経(4)	本	1918-1924, 卒	同上
			本	1925-1928	←				
7	閔星燐	法(69)	本	1918	→	経(5)	本	1918-1921, 卒	同上
8	郁 文	経(8)	本	1919-1921, 卒	→	文(41)	本	1922-1925	卒業後他学部
9	張 操	経(9)	本	1919-1924. 4, 卒	→	法(88)	本	1925. 3, 卒	卒業後他学部
			院	1926-1928	←				他学部卒業後元学部の大学院に
10	丘 琮	理(21)	本	1919	→	工(67)	本	1920-1923, 卒	転部
							院	1924	
11	屠 模	工(61)	選	1919	→	理(24)	本	1920-1921	転部
					→	医(102)	本	1923-1927	再転部
12	張有桐	文(38)	選	1920-1921					
			本	1922, 卒	→	経(83)	本	1923-1926	卒業後他学部
13	陳覚生	農(29)	本	1920-1923	→	法(85)	本	1923-1925, 卒	転部
			院	1926-1928	←				卒業後元学部の大学院に
14	陳世鴻	工(65)	本	1920-1924, 卒	→	法(87)	本	1924-1925, 卒	卒業後他学部
15	鄭萬言	工(85)	本	1923-1925, 卒	→	理(29)	院	1926	卒業後他学部大学院に
16	朱應会	経(30)	本	1921-1924, 卒	→	法(89)	本	1924-1927	卒業後他学部
		経	院	1927	←				元学部の大学院に
17	何競存	経(26)	本	1921-1924, 卒	→	法(90)	本	1924-1926	卒業後他学部
18	范 揚	文(47)	本	1923-1925	→	法(93)	本	1925-1927, 卒	転部

注：( ) の数字は資料「名簿」の付番である。

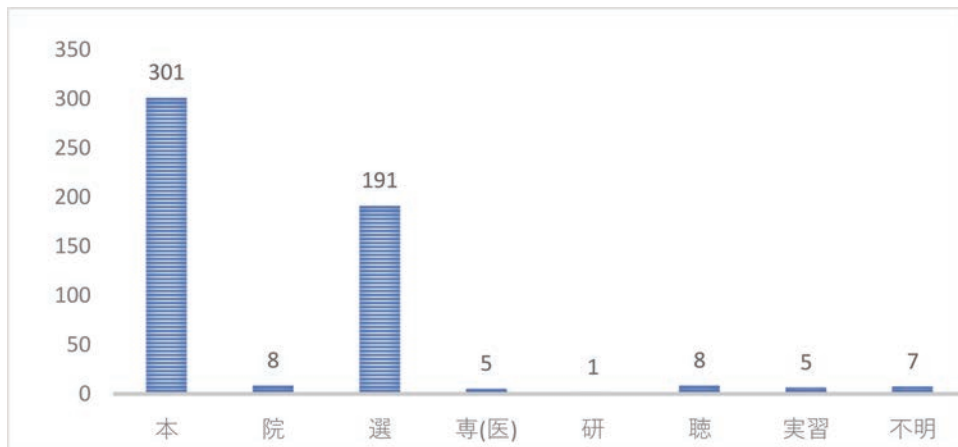
業した。張の法学部の在学期間は一年足らずであり、異例の速さで卒業した。彼は法学部卒業後に再び経済学部の大学院に進学し、1926-1928年の間在籍した。表4からわかるように転部してから、再び元の学部の大学院に進学した者は複数いたが、張操のように二つの学士（経済・法）を持った者はいなかった。朱應会は経済学部を卒業してから法学部に進んだが、法学部を卒業せずに元の経済学部の大学院に進学した。陳覚生は農学部を卒業せずに法学部に転部し、法学部を卒業してから農学部に戻って大学院に進学した。

二つ以上の分科大学・学部 に在籍していた留学生は18人であり、うち屠模は二回転部して前後三つの学部 に在籍していた。

#### 四. 留学生身分の種類と特徴

グラフ4は、1899-1926年の東京帝大入学時の中国人留学生を身分別に記したものである。学生と生徒などの身分は、本科生、大学院生、選科生、専攻生（医）、研究生、聴講生、実習（生）があった。

グラフ4 東京帝国大学中国人留学生の身分別人数（入学時） 単位：人

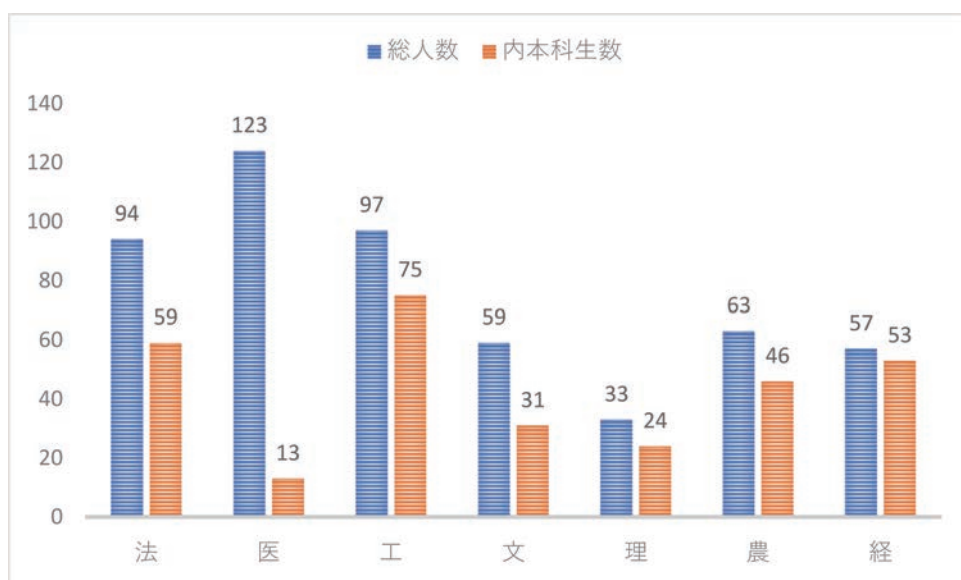


##### 1. 本科生

明治大正期の東京帝大留学生の中で一番多いのは本科生であり、301人を占めた。本科生の入学は大正期に集中しており、彼らの多くは日本の旧制高等学校の卒業生であった。この現象は「五校特約生」の影響によるものである。

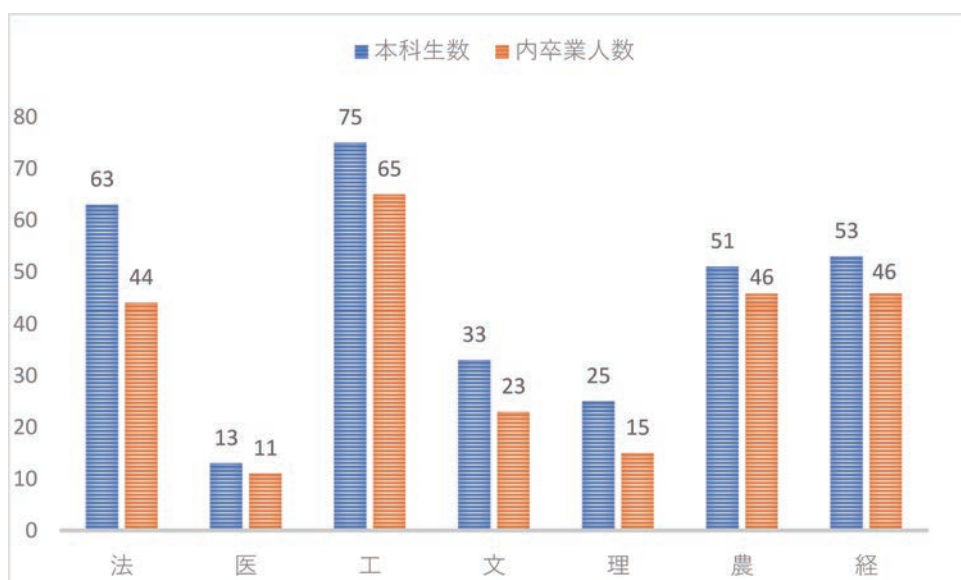
医学部を除くと、六つの分科大学・学部では本科生が占める割合が多いことは、下記のグラフ5から一目瞭然である。

グラフ 5 各分科大学・学部 of 中国人留学生総数と本科生数 単位：人



グラフ 5 の各分科大学・学部の本科生数は、入学時の身分によるものであるため、入学後に身分を変更して本科生になった者は含まれていない。前述のように明治期の農科大学は、一高出身の留学生でもまず選科生として入学し、その後本科生に身分を変更したのだが、他の分科大学にも入学後に身分変更した者は複数存在した。選科生から本科生に身分変更した留学生は、法科大学 4 人、農科大学 5 人、文学部は 2 人、理学部 1 人、合計 12 人である。入学時から本科生身分であった学生 301 人と合わせると、実際の本科生数はグラフ 6 の 313 人となる。明治大正期の本科生は卒業率が高く、313 人中 250 人

グラフ 6 各分科大学・学部の本科生数と卒業人数 単位：人



が卒業し、卒業率は約 80% である。

医、工、農科大学・学部と経済学部の卒業率は 80% 強—90% に対して、法、文、理科大学・学部は 60%—70% であった。なお、工学部の本科卒業生 65 人のほかに選科卒業生が 1 人いたが、それは後述する何燭時であった。

## 2. 大学院生

### (1) 最初の中国人大学院生

東京帝大初の中国人大学院生は、法科大学の王鴻年である。王鴻年は 1901-1903 年に法科大学の選科生であった。『一覧』の記録によると、彼は 1905 年大学院に進学し、1906 年まで在籍していた。当時の「大学院規程」を調べると、東京帝大の本科卒業生ではなくとも条件付き<sup>(27)</sup>で大学院に入ることができた。1906 年の『一覧』を調べてみると、当時の法科大学大学院生のうち、日本人学生はすべて法学士であり、法学士を持っていない者は留学生 2 人（王鴻年と韓国留学生・張憲植）<sup>(28)</sup>だけであり、2 人とも元法学部の選科生であった。

資料の「名簿」からわかるように、王鴻年を除く大学院に進学した中国人留学生は、全員本科卒業生であり、時期としては大正期に集中していた。

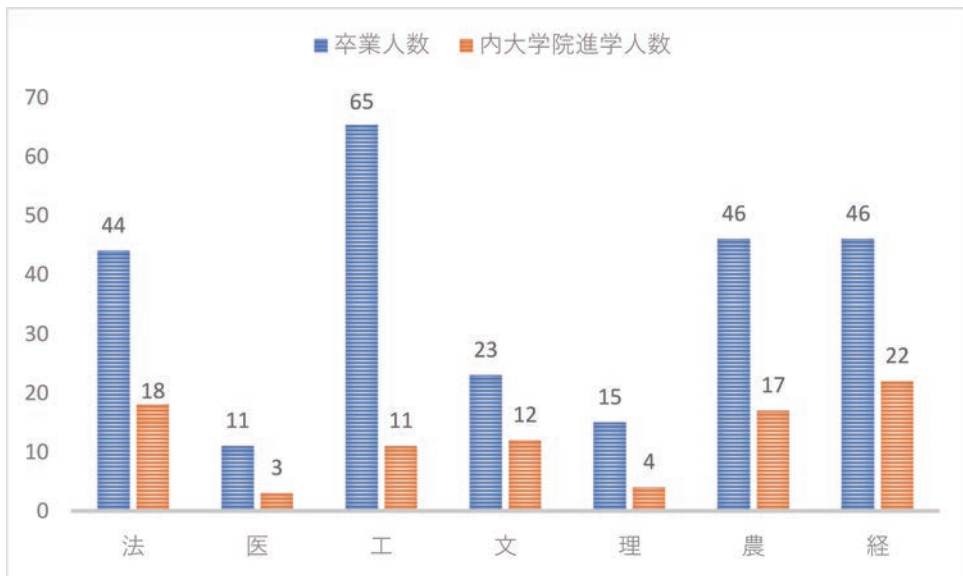
### (2) 本科卒業生の大学院進学

1919 年の帝国大学令改正に伴い、東京帝大の「学部通則」に「大学院学生」規程が組み込まれた。その入学資格は、「当該学部ノ卒業生又ハ之ト同等以上ノ学力アル者」<sup>(29)</sup>と規定されている。実態から見れば、明治大正期の大学院生はほとんど当該学部の卒業生であった。他学部の大学院への進学者は 1 人だけであり、他大学から来た者（京都帝大卒 3 人、北京大学卒 1 人、出身校不明 2 人）はわずかであった。

本科卒業生が当該分科大学・学部の大学院に進学した人数は、グラフ 7 の通りである。

当該分科大学・学部の大学院進学者合計 87 人に、他分科大学へ進学した 1 人を加えると、本科卒業

グラフ 7 各分科大学・学部の本科卒業人数と大学院進学者数 単位：人





生合計 250 人中 88 人が大学院に進学したことになり、35% という高い進学率であった。法科大学・法学部の大学院進学者は本科卒業生の 18 人以外に、選科生で卒業せずに大学院に進学した者（王鴻年）が 1 人おり、それを含めると合計 19 人であった。

### 3. 選科生

明治期の留学生の中では、学生身分として本科生が少なく、選科生が圧倒的に多かった。それは留学生の教育水準に起因し、本科生の入学資格を持つ者が少なかったためである。1918 年まで選科生の入学資格は分科大学通則で「選科規程」として定められ、年齢 19 歳以上、「選科主管ノ教授其学力ヲ試問シ所選ノ課目ヲ学修スルニ堪フルト認ムル者ニ限り其入学ヲ許可スルモノトス」<sup>(30)</sup> というものであった。1919 年の帝国大学令改正に伴い、「選科規程」は学部通則では「選科生」として定められた。その入学資格は以前と大きく変わりがなく、「……其ノ選択スル課目ヲ学修スルニ足ルヘキ学力アルモノニ限ル」<sup>(31)</sup> とされた。明治期にあたる清朝末期の中国では、近代教育は初期段階にあり高等教育機関はわずかで、中等教育を受けた者も多くはなかった。入学希望者の受けた教育レベルを明示していない選科生コースは、本科に入学する資格を持たない留学生たちに東京帝大で学ぶチャンスを提供した。

各分科大学・学部（医を除く）が選科生を受け入れた時期を見てみると、明治期に集中しており、その後本科生の入学が増えるにつれて、選科生は激減していった。1919 年に設立した経済学部では選科生は存在しなかった。

明治期でも分科大学によって対応は異なり、法科大学と農科大学が最初に受け入れた留学生選科生は、一高卒の留学生であり（数年後本科生に身分変更）、留学生の入学の審査はかなり厳しかったようである。この影響のためか、農学部最初の留学生金邦平は選科生ではなく聴講生として入学している。

#### （1）卒業生と大学院の進学——何燭時と王鴻年の例——

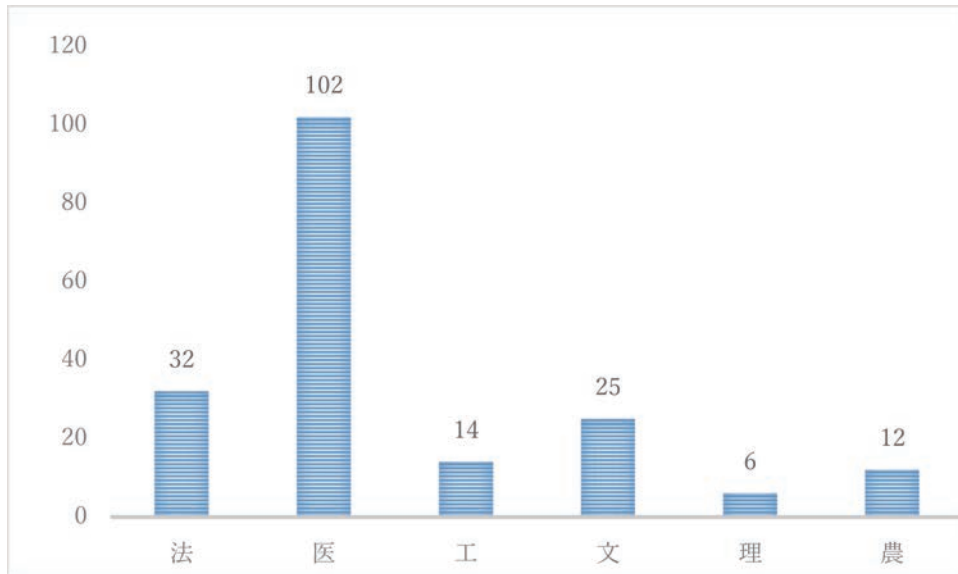
東京帝大の通則では、選科生について 1918 年までの「選科規程」と 1919 年からの「選科生」で大きく変わった内容が一つある。前述の選科生何燭時が卒業できた根拠となった「選科生ハ正科生ト共ニ試験ヲ受ケ正科生昇級の格ニ合フ者ハ願ニ依リ分科大学ヨリ証書ヲ与フ」<sup>(32)</sup> という内容は、1919 年の「選科生」規程では無くなり、代わりに「選科生ハ其ノ学修スル科目ニ就キ試験ヲ受クルコトヲ得試験ニ合格シタル者ハ願ニ依リ学部長之ニ証明書ヲ付与ス」<sup>(33)</sup> となった。つまり選科生のままで本科生と共に試験を受けて正科生昇級の格に合う者として卒業する道はなくなり、学修する科目の試験に合格することによって証明書を受けることとなった。

選科生として卒業した留学生は、日華学堂出身であり一高卒の何燭時しかいなかった。ほかに、法科大学の王鴻年が選科生として 3 年間（1901-1903 年）学んだ後（『一覧』明治 37-38 年に記録なし）大学院に進学し、1905-1906 年に在籍していたことが確認できている。大学院への進学は通常本科を卒業してからのことであった。そのため、王鴻年が選科生を卒業せずに大学院に進学したことは、当時選科生しかなかった留学生のための特別な措置であろう。

#### （2）医科大学・医学部の選科生

医科大学・医学部の留学生数は各分科大学・学部の中で一番多かったのだが、身分としては本科生が少なく選科生が極めて多かったという特徴がある。他分科大学・学部はその逆であり、学生（学生と大学院生）が多く生徒（選科生、聴講生など）が少ないという比率であった。「選科生規程」でも他分科大学・学部と異なり、医科大学の入学資格に高等学校や各種の医・薬学校などが羅列されている。医学を学ぶ特性から、入学条件に医学校卒などが明確に定められていた。また「卒業生ト同等ノ学力アル者ニ限ル而シテ若シ欠員ヲ生スルトキハ定期ニ拘ハラス入学ヲ許可スルコトアルヘシ」<sup>(34)</sup> と規定されてい

グラフ 8 各分科大学・学部の選科生人数（1899-1926 年） 単位：人



たため、中国の医学校卒の留学生でも同等の学力が認められれば、選科生となることができた。1919年からの「選科生」規程では、医学校卒などの条件に関する文言が無くなった。

医科大学・医学部の中国人留学生本科生はわずか13人であったのに対して、選科生は100人を超えていた。

1921-1922年と1924-1925年の『一覧』には「学生生徒姓名」がなかったため、医学部選科生のデータは一部把握できなかった。しかし、幸いにも「本邦留学満洲国及中華民国学生ノ帰国後ニ於ケル状況調査掛」<sup>(35)</sup>という資料に医科大学・医学部の学生と生徒の情報が詳細に収録されているため、『一覧』にない選科生の氏名、専攻、省籍及び在籍期間などについてはそのほとんどが判明した。

医科大学初の中国人留学生選科生の入学は1905年のことであり、その後1907年から1926年まで毎年数人あるいは十数人の選科生が途切れなく入学し続けた。彼らは1年在籍する者が一番多かったが、2年あるいは2年以上在籍していた選科生も少なくなかった。浙江省の王長春は、8年間（1916-1923年）も医科大学・医学部で学んだ。

明治大正期の中国は、医学教育機関が少なく、西洋医学は啓蒙、発展途上の時期であった。100人を超える中国の医学校卒の医療関係者などが、先進的な医術を学ぶために東京帝大にやってきた。選科生として入学して、それぞれの専攻分野で再学習し、彼らのほとんどがこの留学を通じてスキルアップできたと考えられる。当時の東京帝大の医科大学・医学部は、留学生本科生は少なかったものの、選科生制度を通じて数多くの中国医学校卒の医療従事者に先進的な医術を学ぶ機会を与えたのである。

医学部では大正期から選科生以外に専攻生制度が始まった。最初の留学生専攻生の受け入れは1925年のことであった。昭和期に入ると医学部の留学生は、選科生ではなく専攻生としての入学者が急速に増えた。昭和初期（1927-1937年）の医学部の選科生は9人しかおらず、専攻生は132人に上り<sup>(36)</sup>、明治大正期の留学生の身分構成とは大いに異なった。専攻生に関しては、拙論「東京帝国大学における中国人留学生データの解析——昭和初期（1927-1937年）の入学者を中心に——」<sup>(37)</sup>で詳述しているため、参照されたい。

#### 4. 聴講生

本科生、大学院生、選科生は、情報の多くが『一覧』に収録されており、そのほとんどを把握できる。しかし、各分科大学・学部聴講生、研究生、医学部の専攻生などは『一覧』に収録されておらず、確認できない。

東京帝大は創立初期から聴講生を受け入れていたが、制度として明確にその存在が「学部通則」に組み込まれたのは1919年のことである。聴講生規程には、試験がないことと学生と同額の受験料を支払うことが明確に定められていた<sup>(38)</sup>。

筆者の調査により『一覧』以外の資料から、留学生の聴講生は工学部2人、文学部1人、農学部3人、経済学部2人、合計9人と判明したが、実際にはそれ以上の聴講生が在籍していたと推測される。

東京帝大の最初的女子留学生鄭聡貽について、筆者は拙論『中国人女性の日本留学史研究』と他の論文で論じた<sup>(39)</sup>ことがある。彼女は東京女子高等学校の卒業生であり、服部宇之吉教授の推薦により、聴講生として東京帝大の文学部に入学した。最近新資料の発見によって、鄭の入学時期が1921年3月であったことと、1921年の福建省官費生であったことが判明した。彼女は1924-1925年の補給留学生でもあったので、少なくとも4年間は在籍していたと考えられる。

#### 五. 留学生経費の記録

昭和期（日華学会『名簿』が経費別の留学生記録に詳しい）と異なり、明治大正期の留学生の経費に関する資料は少ないため、判明している官費などを受領した年は数年しかない。資料「名簿」の費別欄には判明している限りの受領年を記したが、それ以外は不明である。

この時期の留学生の経費が記録された主な資料は『官報』、『監督処文献』と日華学会『名簿』の三つである。『官報』は4年間（1907-1911年）のみ発行されたものであり、連続した情報としては記録が少ない。『監督処文献』は官費生の情報資料が多いものの、詳細な統計表は1918-1921年に集中し、限られたものである。日華学会『名簿』には費別の詳しい記録があるが、それは1927年から昭和期中心の統計である。明治大正期に入学した留学生であっても1927年以降にまだ在籍しているケースは、該当年の『名簿』に収録されており、費別がわかるが、その数は多くはなかった。

東京帝大留学生の経費別のデータは少ないが、判明している年度からほとんどの本科生は官費生であったことが読み取れる。医科大学以外の選科生も官費生が多かった。

#### おわりに

東京帝大に中国人留学生が登場したのは1899年のことであり、1926年までに少なくとも約500人（延べ人数526人、実数507人）が同大の各分科大学・学部で学んだ。ほかに、農科大学・農学部の実科は、1901年から30数年の間に200人余りの留学生を受け入れ、数多くの卒業生を送り出した。実科の留学生に関する考察は、別稿に譲る。

明治期東京帝大の中国人留学生は、選科生が圧倒的に多かった。その中には、一高卒の留学生が数名含まれていたが、多数は本科生の入学資格を持っていない者であった。選科生制度は、本科に入学する資格を持っていない留学生たちに東京帝大で学ぶチャンスを与えた。大正期に入ってから本科生が急増するにつれ、選科生は激減した。医科大学・医学部は特殊な分野であり、他の分科大学・学部と異なり、明治期も大正期も留学生選科生の入学が絶えず続いていた。当時医学教育機関が少なかった中国の医療関係者にとって、東京帝大の医科大学・医学部はスキルアップの重要な教育基地であった。

大正期に入ると本科生が増加し、留学生の身分構成が本科生中心となった。その背景には、1908-

1922年に実施された「五校特約」協定から誕生した「五校特約生」の入学があった。彼らの帝大進学は1912年から十数年続き、中国人の第一次帝大留学隆盛期（第二次は1930年代半ば）を引き起こした。東京帝大の留学生本科生の多くは、日本の旧制高等学校で教育を受け、中国の官費の支えがあったため、卒業率が高く約80%であった。高い水準の近代知識を身につけた者が少なかった清末・民国初期の中国にとっては、彼らは貴重な人材であった。

明治大正期は、中国の清末・民国初期にあたる。その時期の中国は、内憂外患に直面し、改革・革命運動は絶えず、帝政が倒れ、共和国が成立する激動の時期であった。当時の在日留学生たちは、積極的に改革・革命活動に参加し、辛亥革命の勝利に重要な役割を果たした。彼らの功績はこれだけにとどまらず、留学によって得た近代知識で共和国の建設及び近代化の発展にも大きな貢献をしたのである。

日本の東京帝大は、日本人のエリートを育成する教育機関であるのももちろんのこと、留学生教育の側面から見れば、中国の近代化人材を養成する重要な役割も担っていた。帰国後の留学生たちの各分野での活躍ぶりから、東京帝大の留学生教育の成果をうかがうことができるだろう。

【付記】本論文はJSPS科研費（23K02070）の助成によるものである。本稿の文責はすべて著者にある。資料「名簿」の作成にあたり、道川典子氏の協力があつた。ここに謝意を表したい。

#### 注

- (1) 拙論「東京帝国大学における中国人留学生データの解析——昭和初期（1927-1937年）の入学者を中心に——」『人文学研究所報』神奈川大学人文学研究所, No. 72, 2024年9月, 73-113頁。
- (2) 『東京帝国大学一覧』・『東京帝国大学要覧』従明治32年至明治33年～従明治37年至明治38年；従明治39年至明治40年～従大正15年至昭和2年（1899-1904；1906-1926年）、国立国会図書館デジタルコレクション、<https://dl.ndl.go.jp/>（2025年5月8日最終閲覧、以下同じ）；『東京帝国大学一覧』従明治38年至明治39年は国立国会図書館デジタルコレクションではなく、京都図書館所蔵のものを使用。以下、『東京帝国大学一覧』従明治30年至明治31年を「『一覧』明治30-31年」などと略記する。
- 『東京帝国大学卒業生氏名録』昭和14年、国立国会図書館デジタルコレクション、<https://dl.ndl.go.jp/pid/1457829>。
- (3) 東京大学百年史編集委員会『東京大学百年史 通史二』東京大学, 1985年, 152-153頁。
- (4) 同上, 154頁。
- (5) 同上。
- (6) 拙論「帝国大学における中国人留学生（1927-1937年）——人数・専攻・類別——」日本大学理工学部『一般教育教室彙報』第108号, 2020年4月, 43-53頁。
- (7) 前掲, 拙論「東京帝国大学における中国人留学生データの解析」82-88頁。
- (8) 「学生及生徒姓名」（1897年10月末現在）『一覧』明治30-31年, 434-438頁。
- (9) 「学生及生徒姓名」（1898年10月末現在）『一覧』明治31-32年, 386頁, 431頁。
- (10) 「学生及生徒姓名」（1899年9月末現在）『一覧』明治32-33年, 407, 429-430頁。
- (11) 「本邦留学満洲国及中華民国学生ノ帰国後ニ於ケル状況調 調査掛」参照コード：S0008/SS4/01, 年代域：1906（明治39）年～1937（昭和12）年4月, 東京大学文書館所蔵。
- (12) さねとうけいしゅう（実藤恵秀）『中国留学生史談』第一書房, 1981年, 36-102頁。
- (13) 樊殿武・柴田幹夫編著『日華学堂とその時代 中国人留学生研究の新地平』武蔵野大学出版会, 2022年, 185頁。
- (14) 同上「第Ⅱ部 資料編」523-524頁。
- (15) 韓立冬『近代日本の中国留学生予備教育』北京語言大学出版社, 2015年, 129頁。
- (16) 「第一高等学校 大学予科卒業者」興亜院『日本留学中華民国人名調』1940年, 75頁。
- (17) 「分科大学通則」『一覧』明治39-40年, 73頁。
- (18) 前掲『中国留学生史談』48頁。
- (19) 前掲『日華学堂とその時代』346-349頁。

- (20) 郭夢垚「日華学堂と勵志会」「日華学堂と清国留學生の翻訳活動」；樊殿武「日華学堂出身の學生體たちの通訳活動 吳汝綸の教育視察を中心に」前掲：『日華学堂とその時代 中國人留學生研究の新地平』277-345頁。
- (21) 薩日娜「旧制第一高等学校に学んだ初期京師大学堂派遣の清国留學生について」日本科学史学会『科学史研究』第49巻、第256号、2010年、216-226頁。
- (22) 「一高中國人留學生と101号館の歴史展(2)」東京大学東アジア藝文学院ウェブサイト <https://www.eaa.c.u-tokyo.ac.jp/projects/first-high-school-materialsarchive/exhibition-101-history-2/>。
- (23) 拙論「京都帝国大学における中國人留學生——明治大正期(1903-1926年)の入學者を中心に——」『人文学研究所報』No. 73、2025年3月、169-201頁。
- (24) 前掲『日本留學中華民國人名調』75-76頁。
- (25) 前掲、薩日娜「旧制第一高等学校に学んだ初期京師大学堂派遣の清国留學生について」223頁。
- (26) 同上、223-224頁。
- (27) 「第2条 分科大学卒業生ニアラサル者ニシテ大学院ニ入ラント欲スル者ハ当該分科大学教授会ニ於テ選定シタル試験委員ノ検定ヲ經ルコトヲ要ス」『一覽』明治39-40年、376頁。
- (28) 「學生生徒姓名」同上、1-14頁。
- (29) 『一覽』大正8-9年、96頁。
- (30) 第8章「分科大学通則」第7「選科規程」『一覽』明治39-40年、71-72頁。
- (31) 第9章「学部通則」第5「選科生」『一覽』大正8-9年、92頁。
- (32) 第8章「分科大学通則」第7「選科規程」『一覽』明治39-40年、73頁。
- (33) 第9章「学部通則」第5「選科生」『一覽』大正8-9年、93頁。
- (34) 第9章「分科大学通則」第6「選科規程」『一覽』大正7-8年、87頁。
- (35) 前掲、「本邦留學滿洲国及中華民國學生ノ帰国後ニ於ケル狀況調 調査掛」。
- (36) 前掲、拙論「東京帝国大学における中國人留學生データの解析」88頁。
- (37) 同上、87-88頁。
- (38) 第9章「学部通則」第6「聽講生」『一覽』大正8-9年、93-94頁。
- (39) 拙論『中國人女性の日本留學史研究』国書刊行会、2000年、126、129頁；「帝国大学における中國人女子留學生(1924-1944年)——データ解説と事例分析——」『人文学研究所報』No. 68、2022年9月、46、57頁。

資料：「東京帝国大学中國人留學生名簿——明治32—大正15(1899-1926)年の入學者——」

## 凡例

本名簿は『東京帝国大学一覽』・『東京帝国大学要覽』（以下『一覽』）各年版の「學生（及）生徒姓名」、「卒業生姓名」及び『東京帝国大学卒業生氏名録』（1939年）を主な資料として作成した。その他に東京大学文書館所蔵「本邦留學滿洲国及中華民國學生ノ帰国後ニ於ケル狀況調 調査掛」（以下『狀況調』）、興亜院の『日本留學中華民國人名調』（1940年、以下『人名調』）、清国游學生監督處の『官報』、中華民國留日學生監督處の『中国留日學生監督處文獻』（以下『監督處文獻』）及び日華学会編『留日中華學生名簿』（以下日華学会『名簿』）などの記録から情報を補った。

農学部の実科に在籍していた留學生は、聽講生の身分であるため『一覽』には収録されていない。一部は『一覽』以外の資料により判明したが、別稿で論ずることにし、本稿の「名簿」には含んでいない。

なお、日華学堂や京師大学堂（一高を経由）からの留學生に関しては、実藤恵秀『中国留學生史談』、『日華学堂日誌』及び『狩野亭吉文書』などの資料で補足した。

## 1. 『一覽』のデータ

『一覽』は一次資料であり、「學生（及）生徒姓名」及び「卒業生姓名」の情報は信憑性が高く、誤記なども少ない。しかし、出版年や、統計内容により、すべての年度のデータが網羅されているわけではない。『一覽』各年版の「學生（及）生徒姓名」の調査時期を調べると、1921-1922年と1924-1925年のデータが存在しない。



各年版『一覧』の「学生（及）生徒姓名」調査時期表

一覧・要覧	時期（1897 年以前略）	名簿名称 （ ）内は筆者注	名簿調査時期 （ ）内は筆者注	西暦年
一覧	従明治 30 年至明治 31 年	学生及生徒姓名	明治 30 年 10 月末現在	1897
一覧	従明治 31 年至明治 32 年	同上	明治 31 年 10 月末現在	1898
一覧	従明治 32 年至明治 33 年	同上	明治 32 年 9 月末現在	1899
一覧	従明治 33 年至明治 34 年	同上	明治 33 年 9 月末現在	1900
一覧	従明治 34 年至明治 35 年	学生生徒姓名	明治 34 年 9 月末現在	1901
一覧	従明治 35 年至明治 36 年	同上	明治 35 年 9 月末現在	1902
一覧	従明治 36 年至明治 37 年	同上	明治 36 年 9 月末現在	1903
一覧	従明治 37 年至明治 38 年	同上	明治 37 年 9 月末現在	1904
一覧	従明治 38 年至明治 39 年	同上	明治 38 年 9 月末現在	1905
一覧	従明治 39 年至明治 40 年	同上	明治 39 年 9 月末現在	1906
一覧	従明治 40 年至明治 41 年	同上	明治 40 年 9 月末現在	1907
一覧	従明治 41 年至明治 42 年	同上	明治 41 年 9 月末現在	1908
一覧	従明治 42 年至明治 43 年	同上	明治 42 年 9 月末現在	1909
一覧	従明治 43 年至明治 44 年	同上	明治 43 年 9 月末現在	1910
一覧	従明治 44 年至明治 45 年	同上	明治 44 年 9 月末現在	1911
一覧	従大正元年至大正 2 年	同上	大正元年 9 月末現在	1912
一覧	従大正 2 年至大正 3 年	同上	大正 2 年 9 月末現在	1913
一覧	従大正 3 年至大正 4 年	同上	大正 3 年 9 月末現在	1914
一覧	従大正 4 年至大正 5 年	同上	大正 4 年 9 月末現在	1915
一覧	従大正 5 年至大正 6 年	同上	大正 5 年 9 月末現在	1916
一覧	従大正 6 年至大正 7 年	同上	大正 6 年 9 月末現在	1917
一覧	従大正 7 年至大正 8 年	同上	大正 7 年 9 月末現在	1918
一覧	従大正 8 年至大正 9 年	同上	大正 8 年 9 月末現在	1919
一覧	従大正 9 年至大正 10 年	同上	大正 9 年 9 月末現在	1920
要覧	従大正 10 年至大正 11 年	（名簿なし）	（1921 年データ欠）	
要覧	従大正 11 年至大正 12 年	（名簿なし）	（1922 年データ欠）	
一覧	従大正 12 年至大正 13 年	学生生徒姓名	大正 12 年 9 月末現在	1923
要覧	従大正 13 年至大正 14 年	（名簿なし）	（1924-1925 年データ欠）	
要覧	従大正 14 年至大正 15 年	学生生徒姓名	大正 15 年 6 月末現在	1926
一覧	従大正 15 年至昭和 2 年	同上	昭和 2 年 4 月現在	1927
要覧	従昭和 2 年至昭和 3 年	同上	昭和 3 年 4 月現在	1928
要覧	昭和 4 年	同上	昭和 4 年 5 月 1 日現在	1929
一覧	昭和 5 年度	同上	昭和 5 年 4 月末日現在	1930

要覧	昭和 6 年度	同上	昭和 6 年 4 月末日現在	1931
要覧	昭和 7 年度	同上	昭和 7 年 5 月 1 日現在	1932
一覧	昭和 8 年度	同上	昭和 8 年 5 月 1 日現在	1933
要覧	昭和 9 年度	同上	昭和 9 年 5 月 1 日現在	1934
要覧	昭和 10 年度	同上	昭和 10 年 5 月 1 日現在	1935
一覧	昭和 11 年度	同上	昭和 11 年 5 月 1 日現在	1936
一覧	昭和 12 年度	同上	昭和 12 年 5 月 1 日現在	1937
一覧	昭和 13 年度	同上	昭和 13 年 5 月 1 日現在	1938
一覧	昭和 14 年度	同上	昭和 14 年 5 月 1 日現在	1939
一覧	昭和 15 年度	同上	昭和 15 年 5 月 1 日現在	1940
一覧	昭和 16 年度	同上	昭和 16 年 5 月 1 日現在	1941
一覧	昭和 17 年	同上	昭和 17 年 10 月 1 日現在	1942

『一覧』のデータには在学中に氏名の変った者がおり、『一覧』と『人名調』の卒業生の氏名が一致しないこともあった。これは在学中やその後に改名したと考えられるが、誤記の可能性も否定できない。

## 2. 『一覧』以外の資料の関連データ

『一覧』の「学生（及）生徒姓名」には、学生と生徒の身分として大学院生、本科生、選科生は収録されていたが、聴講生、研究生、実習などは収録されておらず、それらの状況は『一覧』では不明であった。資料「名簿」の作成にあたり、各留学生の省籍・出身校・費別のデータ、及び聴講生、研究生、実習生などの情報は、できるだけ『一覧』以外の資料から補ったが、資料の制限もあり、判明したのは一部であった。

使用した『一覧』以外の資料は、その調査対象や時期及び収録項目がそれぞれ異なる。

「本邦留学満洲国及中華民国学生ノ帰国後ニ於ケル状況調 調査掛」（参照コード：S0008/SS4/01，年代域：1906（明治 39）年—1937（昭和 12）年 4 月，東京大学文書館所蔵）という資料は、東京帝国大学の各分科大学・学部 of 留學生調査であり、各学部の調査対象や基準などは一致せず、医学部と農学部の留學生リストにはほとんどの留學生が網羅されているのに対して、文学部は本科生のみが収録されている。

『人名調』は卒業生を中心とした名簿であり、満洲地域の出身者を収録せず、中華民国出身者しか収録されていない。『官報』は 4 年間（1907–1911 年）のみ発行されたものであり、連続した情報としては記録が少ない。『監督処文献』は、官費生の情報資料が圧倒的に多く、詳細な統計表は 1918–1921 年に集中している。以上の資料の特徴などについては拙論「京都帝国大学における中国人留學生——明治大正期（1903–1926 年）の入学者を中心に——」（『人文学研究所報』神奈川大学人文学研究所，No. 73，2025 年 3 月，185–186 頁）で論述したので、参照されたい。

## 3. 項目欄の説明

本名簿は、学生を学部別に入学年度順に並べた。同じ年度の場合は本科生、大学院生、選科生、専攻生、研究生、聴講生、実習などの順に配列した。

「姓名」：原則として元資料のまま転記し、判読できずに推測した文字は斜体で示した。「名簿」では、同一人物と思われる者の姓名の異なる漢字は、（ ）内に示すか備考欄で説明した。それだけではわかりにくい場合は、一行追加してデータを補足した。

「省籍」：『一覧』では留学生の出身について多くの場合「清国」、「支那」、「中華民国」のように記載されているが、「名簿」では国名などを省略し、代わりに『一覧』以外の資料で判明した省籍を記載した。

「学科または専攻」：分科大学及び学部の学科または専攻を以下のように略記し、留學生がいなかった学科は省略した。

法科大学・法学部の法律学科、政治学科、経済学科、商業学科を法、政、経、商；医科大学・医学部の医学科、薬学科を医、薬；専攻の衛生化学、裁判化学、製薬化学分析術、病理学、生薬学、薬化学、衛生化学、衛生裁判化学、耳鼻咽喉科学、皮膚病学黴毒学と皮膚病学黴菌学、薬品製造学、内科学、衛生学、眼科学、解剖学、

病理学, 生理学, 精神病学, 医化学, 皮膚泌尿器科学, 産科婦人科学を衛生化, 裁判化, 製薬化, 病理, 生薬, 薬化, 衛生化, 衛生裁判化, 耳鼻咽, 皮膚, 薬品製造, 内, 衛生, 眼, 解剖, 病理, 生理, 精神, 医化, 皮膚, 産婦人; 工科大学・工学部の土木工学科, 機械工学科, 造船学科, 船舶工学科, 造兵学科, 電気工学科, 応用化学学科, 火薬学科, 採鉱及冶金学科, 採鉱学科, 冶金学科, 鉱山学科, 鉱山及冶金学科を土木, 機械, 造船, 船舶, 造兵, 電気, 応用化, 火薬, 採鉱及冶金, 採鉱, 冶金, 鉱山, 鉱山及冶金; 文科大学・文学部の哲学科, 史学科, 文学科, 東洋史学科, 印度哲学科, 社会学科, 教育学科, 美学美術史学科, 言語学科, 仏蘭西文学科を文, 史, 哲, 東洋史, 印度哲, 社, 教, 美, 言語, 仏; 理科大学・理学部の数学科, 星学科, 物理学科, 化学学科, 動物学科, 植物学科, 地質学科, 理論物理学科, 実験物理学科, 鉱物学科, 地理学科, 天文学科を数, 星, 物, 化, 動, 植, 地質, 理論物理, 実験物理, 鉱物, 地理, 天文; 農学部の農学科, 農芸化学科, 林学科, 獣医学科, 水産学科, 農業経済学科を農, 農芸化, 林, 獣医, 水産, 農業経; 経済学部の経済学科と商業学科を経, 商。

なお, 文学部の1919-1920, 1923, 1926年の「学生生徒姓名」には学科の記録がなく, また『一覧』には1921-1922年と1924-1925年の4年分の「学生生徒氏名」がない。そのため, 1919-1926年間の文学部の留学生の学科のデータは, 『卒業生氏名録』などの記録によるものである。

「身分」: 留学生身分の種類には, 本科生, 大学院生, 選科生, 専攻生(専攻科), 研究生(研究科), 聴講生, 副手, 介補, 実習があり, 本項目欄では院, 本, 選, 専, 研, 聴, 副, 介と略記し, 実習はそのままとした。

「入学・採用・嘱託年(在籍初年による場合)」: 東京帝大明治期『一覧』の「学生(及)生徒姓名」では入学年が明確に記されず, 在籍初年の学生は「第1回(受験生)」, あるいは「第1年」の枠に記録されている。付録「名簿」では各年の「第1回(受験生)」と「第1年」の留学生を同年の入学とみなした。大正期以後は, ほとんどの学部の入学年を明記した。採用・嘱託年は日華学会『名簿』によるものである。

「卒業年月または大学院生の研究テーマ」: 本科生の卒業年月と大学院生の研究テーマは『一覧』あるいは『卒業生氏名録』の記録による。

「在籍年度・年・推測年」: 在籍年度はほとんど『一覧』によるデータだが, そこにないものは, 他の文献の記録により補充した。できる限り新年度開始時期と『一覧』の調査時期に照らした年度としたが, 年度の判明が難しい場合は年(下線引き)のままとし, 筆者が推測した年は二重線を付して区別した。東京帝大は1919年までには新年度の始まりが9月であり, 『一覧』の「学生(及)生徒姓名」の統計時期もほとんど9月である。1920年からは新年度の開始は4月となったので, その前後は年度の期間が異なる。

「出身校」: 基本的に略称で表記した。

「費別と受領年」: 『監督処文献』の統計表の中央官費と省官費は, すべて「官」とした。日華学会『名簿』では年度によって費用の名称が異なるが, 官, 省官費は「官」に, 補・文化一般補・一般, 文化補給などは「補」, 文化特選は「特」, 文化選抜は「選」と略記した。1908年の数名の情報は『官報』の「東京大学本届畢業生履歴表」(光緒34年6月, 第19期, 25頁)卒業予定から抽出したものである。資料の制約により, 判明している受領年は限られている。1908(数名), 1909, 1918-21, 1927-1929年の記載情報以外は不明である。

「備考」: 注記すべき内容や出典資料から補うべき情報を記した。

名簿作成にあたって誤記や遺漏などは避けられないことであるが, 本資料が東京帝大中国人留学生研究の一助となることを願う。

No	姓名	省籍	学科または専攻	身分	入学・採用・嘱託年(在籍初年による場合)	卒業年月または大学院生の研究テーマ	在籍年度・年・推測年	出身校	費別と受領年(1908年数名, 1909, 1918-1921, 1927年から以外は不明)	出典	備考
法(法科大学・法学部) 94人											
1	張煜全	広東	政	選	1899		1899	日華学堂	官 1899	①⑦	
2	王鴻年		政	選	1901		1901-1903			①	卒業の記録なし
				院	1905	行政法	1905-1906			①	法学士の記録なし
3	呉振麟	浙江	政	選	1901		1901-1903	一高		①⑦	日華学堂から一高

4	章宗祥	浙江	政	選	1901		1901-1902	一高		①⑦	日華学堂から一高
5	錢承鈺	浙江	政	選	1901		1901-1903	一高		①⑦	日華学堂から一高
6	馮閔模	江蘇	政	選	1902		1902-1904 : 1906-1908		官 1909	①⑧	
7	刑之囊		法	選	1905		1905-1906			①	
		直隸	法	本	1909		1909-1911			①⑧	
8	劉成志	江蘇	法	選	1905		1905	一高		①⑥	京師大学堂派遣
			政	選			1906-1908			①	
9	唐 演		法	選	1905		1905-1908			①⑥	京師大学堂派遣
10	周家彦	四川	政	選	1905		1905-1909		官 1909	①⑧	
			政	本		1911. 7	1910	一高		①②	②同家彦, 広東
11	張競勇	浙江	政	選	1905		1905-1909		官 1909	①⑧	
12	張競仁		政	選	1905		1905-1907			①	
13	伍崇明		政	選	1905		1905			①	
14	郭開文	四川	政	選	1905		1905-1908		官 1909	①⑧	
15	黃汝鑑	四川	政	選	1905		1905-1907		官 1908	①⑧	
16	張春流	四川	政	選	1905		1905-1907		官 1908	①⑧	
17	熊 垓		政	選	1905		1905-1907			①	
18	周柏年		政	選	1905		1905-1908			①	
19	辛 漢	江蘇	政	選	1905		1905-1908		官 1909	①⑧	
20	劉冕執	湖南	法	選	1906		1906-1908	一高	官 1909	①⑥⑧	京師大学堂派遣
21	高 朔		法	選	1906		1906-1907			①	
22	謝曉石	江西	法	選	1906		1906-1909		官 1909	①⑧	
23	鍾賡言	浙江	政	選	1906		1906-1909	一高	官 1909	①②⑥	京師大学堂派遣
			政	本		1910. 10	1910			⑧	
				院	1911	貨幣及び銀行論	1911	東大法		①	
24	王 侃	江西	政	選	1906		1906-1908		官 1909	①⑧	
25	劉志揚		政	選	1906		1906-1907			①	
26	經家齡		政	選	1906		1906-1907			①	
27	張友棟	貴州	政	選	1906		1906-1909		官 1909	①⑧	
28	劉螢澤		政	選	1906		1906			①	
29	余榮昌	浙江	法	本	1907	1911. 7	1907-1910	一高	官 1909	①②⑥ ⑧	京師大学堂派遣
30	朱 深	直隸	法	本	1907	1912. 7	1907-1911	一高	官 1909	①②⑥ ⑧	京師大学堂派遣 ②朱澣
31	陳發檀	広東	政	本	1907	1911. 7	1907-1910	一高	官 1909	①②⑥ ⑧	京師大学堂派遣
32	張耀曾	雲南	政	本	1907	1914. 7	1907-1913	一高	官 1909	①②⑥ ⑧	京師大学堂派遣
33	梁載熊	湖南	法	選	1907		1907-1909		官 1909	①⑧	
34	沈家弊	江蘇	法	選	1907		1907-1910		官 1909	①⑧	
35	陳治安	広東	政	選	1907		1907-1909	一高	官 1909	①②⑥ ⑧	京師大学堂派遣
		広東	政	本		1911. 7	1910-1910			①⑧	
36	錢樹芬		政	選	1907		1907			①	

37	瞿世瑛	江蘇	法		1907		1907-1909		官 1909	⑧	第 2 年級 ①記録なし
38	石志泉	湖北	法	本	1909	1914. 7	1909-1913	二高		①②⑧	
39	江華本	湖北	経	本	1909		1909-1913			①④⑧	⑥江萃本
40	何基鴻	直隸・ 河北	法	本	1909	1916. 5	1909-1915	一高		①②⑨	
41	魏宗蓮		法	本	1910		1910-1911			①	
42	史澤威		法	本	1910		1910-1911			①	
43	盛德鎔	江蘇	法	本	1911	1916. 5	1911-1915	三高		①②⑨	
44	張 錚		政	本	1911		1911			①	
45	吳永權		法	本	1912		1912			①	
		四川	政	本	1913	1917. 7	1913-1916	二高		①②④	
46	陳啓修	四川	政	本	1913	1917. 3	1913-1916	一高		①②⑨	
47	李信臣	湖北	政	本	1913	1917. 3	1913-1916	三高		①②⑨	
				院	1918	政治学	1918-1919	東大法		①	
48	宋 任	浙江	政	本	1913		1913-1916			①④⑨	⑨宋仁
49	周龍光	山東	政	本	1913	1917. 3	1913-1916	五高		①②⑨	②山東⑨安徽
50	陳瑾昆	湖南	法	本	1914	1917. 7	1914-1916	五高		①②	
51	陳士杰	湖北	政	本	1914	1917. 7	1914-1916	二高		①②	
52	劉展超	広東	政	本	1914	1917. 7	1914-1916	五高		①②	
53	崔士傑	山東	政	本	1914	1917. 7	1914-1916	五高		①②	
54	丁紹侶	湖北	経	本	1914	1917. 7	1914-1916	一高		①②	
55	曾天宇		法	本	1915		1915-1917			①	
		四川	商	本			1918-1919		官 1918	①④⑨	
56	程光銘	湖北	法	本	1915	1918. 7	1915-1917	一高		①②	
				院	1918	民法	1918-1919	東大法	官 1918-1919	①⑨	
57	王兆榮	四川	政	本	1915		1915-1919		官 1918	①④⑨	
58	黃倫芳	広東	政	本	1915	1918. 7	1915-1917	五高		①②	
				院	1918	応用財政	1918-1919	東大法	官 1918-1919	①⑨	
59(経 7)	羅 鼎	湖南	経	本	1915	1918. 7	1915-1917	二高	官 1918-1919	①②⑨	
				院	1918	貨幣銀行論	1918	東大法		①	1919 年経済学部へ
60(経 1)	周宏平	湖南	経	本	1915		1915-1918	四高	官 1918	①②⑨	1919 年経済学部へ
61	張育海	江西	政	本	1916	1919. 7	1916-1918	三高	官 1918-1919	①②⑨	1919 年までは新 年度の開始は 9 月
		江西		院	1919	財政学	1919-1919	東大法	1919	①⑨	
62	何競擇	湖北	政	本	1917	1920. 7	1917-1920	一高	官 1918-1920	①②⑨	1920 年から新 年度の開始は 4 月
63	盛沛東	浙江	政	本	1917	1920. 7	1917-1920	一高	官 1918-1920	①②⑨	
64(経 2)	費敏士	江蘇	商	本	1917		1917-1918		官 1918-1919	①⑨	1919 年経済学部へ
65	楊志章	広東	法	本	1918	1921. 4	1918-1921	三高	官 1918-1920	①②⑨	
				院	1921	親族相続法	1921-1925	東大法	官 1921	①⑨	
66	吳 善	安徽	政	本	1918	1921. 4	1918-1921	五高	官 1918-1921	①②⑨	
				院	1921	政治学	1921-1925	東大法		①③	
67(経 3)	郭 煥	直隸	経	本	1918		1918		官 1918-1919	①⑨	1919 年経済学部へ



68(經 4)	韓秉端	直隸	商 法	本 本	1918 1925		1918 1925-1928		官 1918-1919 自 1927	①⑨ ①③④	1919 年経済学部へ 経済学士
69(經 5)	閔星燮	江西	商	本	1918		1918		官 1918-1919	①⑨	1919 年経済学部へ
70	胡元義	湖南	法	本	1919	1924. 6	1919-1924	七高	官 1919-1921	①②⑨	
71	黃 敬	廣東	法	本	1919	1922. 3	1919-1921	七高	官 1919-1922	①⑨	
72	黃得中	江西	法	本	1919	1924. 4	1919-1924	五高	官 1919-1920	①②⑨	
73	史尚寬	安徽	法	本	1919	1922. 3	1919-1921	三高	官 1919-1921	①②⑨	
				院	1922	民法	1922-1925	東大法		①	
74	陳延炯	廣東	政	本	1919	1922. 3	1919-1921	四高	官 1921	①②⑨	
				院	1922	政治学	1922-1923	東大法		①	
75	馮偉民	廣東	政	本	1919		1919-1925		官 1919-1921	①④⑨	
76	白鵬飛	廣西	政	本	1919	1922. 3	1919-1921	八高	官 1919-1921	①②⑨	
77	李德新	奉天	政	本	1920	1923. 3	1920-1922		官 1921	①⑨	
78	盧永康	湖北	政	本	1920	1923. 3	1920-1922	一高	官 1921	①②⑨	
				院	1923	国際公法	1923-1925	東大法		①③	
79	李絜詒	湖南	政	本	1920		1920-1926		官 1921	①③④ ⑨	④李絜詒
80	吳瀚濤	吉林	政	本	1921	1924. 4	1921-1924	三高		①②④	②浙江
	吳瀚濤	吉林		院	1924	国際法	1924-1925	東大法		③	
81	吳 岐	浙江	法	本	1922	1925. 6	1922-1925	八高		①②③	
				院	1926	憲法学	1926	東大法		①	
82	鄧鴻藩	雲南	法	本	1923	1926. 3	1923-1925	三高		①②③	
				院	1926	国際法	1926-1928	東大法	補 1927-1928	①③	
83(文 38)	張有桐	江西	法	本	1923		1923-1926	東大文		①④	文学士
84	錢穉孫	浙江	政	本	1923		1923-1926			①③④	農学士
85(農 29)	陳覺生	廣東	政	本	1923	1926. 3	1923-1925	東大農		①②③	農学士
86	羅超彦	湖南		院	1923	政治学	1923-1925	京大法		①②	法学士
87(工 65)	陳世鴻	湖南	政	本	1924	1925. 6	1924-1925	東大工		①②③	工学士③大正 13 年 4 月入学
88(經 9)	張 操		政	本	1924	1925. 3	1924	東大經		①②	経済学士 (1924. 3 卒), 法卒業(1925. 3)後 経済学部大学院へ
89(經 30)	朱應會	湖南	法	本	1924		1924-1927	東大經		①③④	経済学士, 1929 年 経済学部大学院へ
90(經 26)	何競存	湖北	政	本	1924		1924-1926	東大經		①③④	経済学士
91	劉楚青	江西	政	本	1924	1927. 3	1924-1926	八高		①②③	
				院	1927	民法	1927-1928	東大法	補 1927-1928	①	
92(文 47)	范 揚	浙江	法	本	1925	1928. 3	1925-1927	三高	自 1927	①②③	
				院	1928	物務法及債 務法ニ関ス ル立法政策	1928-1929	東大法		①	
93	楊雲竹	直隸・ 河北	政	本	1926	1929. 3	1926-1928	一高	補 1927-1928	①②③	
				院	1929	国際公法	1929	東大法	補 1929	①③	

94	李富善	山東		院	1926	国際公法	1926-1928		補 1927-1928	①③	法学士③東大法と記録されているが、『一覧』にはなし
医（医科大学・医学部）123 人											
1	傅汝勤	湖北	外科	選	1905		1905			④	①記録なし
2	胡晴崖	広東	衛生化・裁判化	選	1907		1907-1908		官 1909	①⑧	
3	曾 貞	江西	衛生化・裁判化	選	1907		1907-1908		官 1909	①⑧	
4	王煥文	江西	製薬化	選	1907		1907-1908		官 1909	①⑧	
5	鮑 鏞	広東	製薬化	選	1907		1907-1909		官 1909	①⑧	
6	王曾憲	江蘇	医	本	1908	1915. 7	1908-1914	一高	官 1909	①②⑥ ⑧⑨	京師大学堂派遣
7	劉東海	直隸	病理	選	1908		1908-1909			①④⑧	
8	史金塘	河南	病理・生薬	選	1909		1909-1911			①⑧	
9	羅兆寅	湖南	薬化	選	1909		1909-1911			①⑧	
10	仲鳳鳴	江蘇	衛生化・衛生裁判化	選	1909		1909-1911			①⑧	
11	張仲山	直隸	耳鼻咽	選	1910		1910			①④	
12	陳 謨		衛生	選	1910		1910			①	
	陳 謨	広東	内	選	1911		1911			④	
	陳 模 (謨)	広東	皮膚	選	1914		1914			①④	①陳模
13	趙燭黄	江蘇	生薬	選	1910		1910-1911			①④	
14	朱家本		生薬	選	1910		1910-1911			①④	④(省籍)不明
15	蔡鐘杰	江蘇	薬品製造	選	1910		1910-1911			①④	
16	伍 晟	江蘇	衛生裁判化	選	1910		1910-1911			①④	
17	嚴智鍾	直隸・河北	医	本	1911	1916. 7	1911-1915			①②⑨	②河北
18	王琨芳	湖北	内	選	1911		1911			①④	
19	陳虞光	広東	衛生	選	1911		1911-1912			①④	
		広東	内	選	1913		1913-1914			①④	
20	孫潤畚	江蘇	生薬	選	1911		1911			①④	
21	陳 芳		医	本	1912		1912			①④	
	陳 方 (之)	浙江	医	本		1918. 7	1913-1917		官 1918	①②④ ⑨	②④陳方之
	陳方之	浙江		院	1924	病理学一般	1924-1925	東大医		③	
22	姚鑫振	陝西	内	選	1913		1913			①⑨	
23	鄺國樑	広東	衛生	選	1913		1913			①⑨	
24	李博文	広東	衛生	選	1913		1913			①⑨	
25	陸繞陽	浙江	皮膚	選	1914		1914			①⑨	
26	黎啓康	広東	衛生・皮膚	選	1914		1914-1915			①④	
27	葉培初	広東	衛生	選	1914		1914			①④	

28	李堉身	浙江	医	本	1915	1921. 7	1915-1921	二高	官 1918-1921	①⑨	
29	何鳴鐸	江蘇	内	選	1915		1915-1916			①④	
30	朱植生	浙江	内	選	1915		1915			①④	
31	鄺光衡	広東	眼	選	1915		1915			①④	
32	黄灼如	広東	解剖	選	1915		1915			①④	
33	陳 彦	広東	病理	選	1915		1915-1916			①④	
34	舒元馨	山東	生理	選	1915		1915			①④	
35	於達望	浙江	生薬	選	1915		1915-1918			①④	
36	李爲漣	江西	医	本	1916	1920. 12	1916-1920	一高	官 1918-1921	①⑨	
37	阮 典	広東	内	選	1916		1916			①④	
38	王青山		内	選	1916		1916			①	
39	程樹榛	浙江	内	選	1916		1916			①④	
40	陸吉甫	広東	皮膚	選	1916		1916			①④	
41	王長春	浙江	衛生裁判 化	選	1916		1916-1923		官 1918-1921	①④⑨	
42	黄 琛	福建	内	選	1917		1917			①④	
43	梅 湛	広東	内	選	1917		1917			①④	
44	何剛儀	広東	衛生裁判 化	選	1917		1917			①④	
45	裘譔臣	浙江	内	選	1917		1917			④	
46	張彭年	江蘇	眼	選	1918		1918			①④	
47	孫其湛	江蘇	耳鼻咽	選	1918		1918			①④	
48	錢嘉淦	浙江	衛生裁判 化	選	1918		1918			①④	
49	李振強	広東	眼	選	1918		1918			①④	
50	于福生	江蘇	眼	選	1918		1918			①④	
51	馬鴻韜	江蘇	皮膚	選	1918		1918			①④	
52	張孝年	浙江	精神	選	1918		1918			①④	
53	趙士尚	四川	薬化	選	1918		1918			④	
54	於達望	浙江	薬	選			1918			⑨	
55	江聖陶	浙江	薬	実習			1918-1919		官 1818-1919	⑨	薬局
56	金煦章	江蘇	皮膚	選	1919		1919			①④⑨	
57	方 瑜	浙江	耳鼻咽	選	1919		1919			①④⑨	
58	朱凱廷	江蘇	眼	選	1919		1919			①④⑨	
59	袁祖虞	江蘇	眼	選	1919		1919			①④⑨	
60	蔡秉樞	江蘇	眼	選	1919		1919			①④⑨	
61	熊開棣	江蘇	眼	選	1919		1919			①④⑨	
62	李 彦	広東	眼・耳鼻 咽	選	1919		1919-1920			①④⑨	
63	李卓材	広東	眼	選	1919		1919			①④⑨	
64	徐承基	江蘇	眼	選	1919		1919			①④⑨	
65	姚志尚	浙江	皮膚	選	1919		1919			①④⑨	⑨姚尚志
66	載尚文	安徽	皮膚	選	1919		1919			①④⑨	
67	范天麟	江蘇	皮膚	選	1919		1919			①④⑨	⑨には記録なし
68	丁於舉	江蘇	皮膚	選	1919		1919			①④⑨	④白木①舉

69	殷(段)士豪	江蘇	皮膚	選	1919		1919			①④⑨	
70	周思溥	浙江	皮膚	選	1919		1919			①④⑨	
71	曾欽恭	江西	皮膚	選	1919		1919			①④⑨	
72	孫去病	浙江	皮膚	選	1919		1919-1922		官 1919, 1921	①④⑨	
73	張念和	江蘇	耳鼻咽喉	選	1919		1919			①④⑨	
74	朱樹敏	江蘇	耳鼻咽喉	選	1919		1919			①④⑨	
75	崔 榆	江蘇	耳鼻咽喉	選	1919		1919			①④⑨	
76	華乾吉	江蘇	医化	選	1919		1919			①④⑨	
77	陳光宇	江蘇	衛生	選	1920		1920			①④	
78	邵紀雲	廣東	眼	選	1920		1920			①④	
79	陳存善	江蘇	眼	選	1920		1920			①④	
80	王象鐘	江蘇	耳鼻咽喉	選	1920		1920			①④	
81	陸鴻彬	江蘇	耳鼻咽喉	選	1920		1920			①④	
82	吳組(祖)華	江蘇	耳鼻咽喉	選	1920		1920			①④	
83	張光漢	福建	皮膚	選	1920		1920			①④	
84	謝筠壽	浙江	皮膚	選	1920		1920			①④	
85	載榮綬	江蘇	皮膚	選	1920		1920			①④	
86	邵家驊	浙江	耳鼻	選	1921		1921			④	
87	顧 岱	江蘇	皮膚	選	1921		1921			④	
88	高子展	浙江	耳鼻	選	1921		1921			④	
89	宋懋傳	浙江	皮膚	選	1921		1921			④	
90	張贊休	浙江	皮膚	選	1921		1921			④	
91	馬濟群	廣東	眼	選	1921		1921			④	
92	徐廷蘭	浙江	皮膚	選	1921		1921			④	
93	林更生	福建	皮膚	選	1921		1921			④	
94	劉懋淳(淳)	江西	医	本	1922	1928. 6	1922-1928	六高	補 1927-1928	①②③	
				研	1929		1929	東大医	補 1929	③	③劉懋淳, 研究生
				院	1930	皮膚科学及性病學一般	1930-1931	東大医	補 1930 自 1931	①③	
95	劉亦琳	直隸	眼	選	1922		1922-1925			③④	
96	吳少海	廣東	眼	選	1922		1922-1925			③④	
97	沈種荅	雲南	眼	選	1922		1922-1925			③④	
98	林夏屏	廣東	皮膚	選	1922		1922-1925			③④	
99	張方慶	浙江	医	本	1923	1927. 3	1923-1926	四高		①②③④	
				研	1927		1927-1929	東大医	補 1927 自 1929	③	③ 1928 年は本科生以外の情報未収録のため費用不明
				副	1930		1930	東大医	自	③	
100	林葆駱	福建	医	本	1923	1928. 3	1923-1927	五高	補 1927, 1929	①②③④	
				研	1928		1928-1929	東大医		③	
101	盧永健	福建	医	本	1923		1923-1931		補 1927-1929 自 1930	①③④	

102(工 61 理 24)	屠 模	江蘇	藥	本	1923		1923-1927	六高	補 1927-1928	①③④	③ 1928 年在籍
103	楊 贊	浙江	眼	選	1923		1923-1925			①③④	③ 1924 年入学
104	譚葆誠	広東	皮膚泌	選	1923		1923-1925			①③④	③ 1924 年 4 月入学
105	李鼎勛	湖南	医	本	1924	1928. 3	1924-1927	八高	補 1927	①②③ ④	
				研	1928		1928-1929	東大医	補 1929	③	③ 1928 年は本科生以外の情報未収録のため費用不明
				副			1930	東大医	自 1930	③	
				院	1931	糖ノ新陳代謝ニ就イテ	1931-1932	東大医	特 1931 補 1932	①③	
106	熊 俊	江西	医	本	1924	1928. 3	1924-1927	一高		①②③ ④	
				研	1928		1928-1929	東大医	補 1929	①③	
107	厲存洪	江蘇	皮膚	選	1925		1925			④	
108	張鐘泗	浙江	眼	選	1925		1925			④	
109	劉六峯	広東	眼	選	1925		1925			④	
110	陳中肯	浙江	眼	専	1925		1925-1927			④	初めての専攻生
111	陶 列	江蘇	精神	研	1925		1925-1927	京大医	自 1927	③	陶列は陶烈の誤記
112	殷蕙田	江蘇	皮膚	選	1925		1925			④	
			皮膚	実習	1925		1925-1927	省立医学専門卒	自 1927	③	③ 1927 年に実習生
				専	1928		1928-1929	江蘇医大	補 1929	③	
113	揚(楊)毅	湖南	藥	本	1926	1931. 3	1926-1930	二高	補 1927-1930	①②③ ④	
114	夏偶鼎			院	1926	肝機能ニ関スル藥理的 研究	1926			①	
115	阮德和 (女)	広東	産婦人	選	1926		1926-1927	光華医 学校		①④⑩	
116	余竹軒 (女)	広東	産婦人	選	1926		1926-1927	光華医 学校		①④⑩	
117	周文炘	江西	眼	選	1926		1926-1927			①④	
				専	1927		1927	東大医 専科	補 1927	③	
118	管 樞	浙江	眼	選	1926		1926-1927			①④	
119	劉志變	安徽	皮膚泌	選	1926		1926-1927			①④	
120	葉潤石	浙江	皮膚泌	専	1926		1926-1927	浙江公 立医藥 専門	自 1927	①③	③皮膚科専科
121	陳慰堂	浙江	内	専	1926		1926-1929	浙江公 立医藥 専門	自 1927 補 1929	①③	③内科専攻科
122	屠寶琦	浙江	内	専	1926		1926-1927			④	



123	張鐘泗	浙江	眼	專	1926		1926-1927	浙江公立医学専門	自 1927	①③	③眼科専攻科
工（工科大学・工学部）97 人											
1	黎 科	広東	土木	選	1899		1899	日華学堂	官 1899	①⑤⑦	唐才常蜂起で刑死
2	鄭葆承 (歿)	福建	土木	選	1899		1899	日華学堂	官 1899	①⑤⑦	唐才常蜂起で刑死, ①歿
3	沈 琨	直隸	機械	選	1899		1899-1902	日華学堂	官 1899	①⑦	
4	張鏐緒	直隸	機械	選	1899		1899-1902	日華学堂	官 1899	①⑦	
5	高淑琦	浙江	機械	選	1899		1899-1902	日華学堂	官 1899	①⑦	
6	安慶瀾	直隸	造兵	選	1899		1899	日華学堂	官 1899	①⑤⑦	唐才常蜂起で刑死
7	張 奎	江蘇	応用化学	選	1899		1899-1902	日華学堂	官 1899	①⑦	
8	蔡成煜	直隸	応用化学	選	1899		1899	日華学堂	官 1899	①⑤⑦	唐才常蜂起で刑死
9	陳 槐	浙江	造兵	選	1902		1902-1905	一高		①⑦	日華学堂から一高
10	呉榮邕		土木	選	1903		1903			①	
11	何矯時	浙江	採鋇及冶金	選	1903	1906. 7	1903-1905	一高		①②⑦	日華学堂から一高 ②何矯時
12	孫慶澤	直隸	土木	選	1906		1906-1909		官 1909	①⑧	
13	施恩曦	江蘇	土木	本	1908	1913. 7	1908-1912	一高	官 1909	①②⑥⑧	京師大学堂派遣
14	毛毓源	浙江	土木	本	1908	1914. 7	1908-1913	二高	官 1909	①②⑧	
15	張 毅	広西	土木	本	1909		1909-1912			①⑧	
16	傅爾放	江西	造船	本	1909	1915. 7	1909-1914	六高		①②⑧	
				院	1915	軍艦設計	1915-1915	東大工		①	
17	呉 和	湖北	造兵	本	1909		1909-1913			①⑧	
18	洪彦亮	浙江	冶金	本	1909	1913. 7	1909-1912	六高		①⑧	
19	許 徵	浙江	冶金	本	1909	1913. 7	1909-1912	六高		①⑧	
20	尹援一		土木	本	1910		1910-1912			①	
21	何熙曾	福建	採鋇	本	1912	1915. 7	1912-1914	三高		①②④⑨	④⑨福建②湖南, 何熙曾
22	唐吉傑	湖南	冶金	本	1912	1915. 7	1912-1914	二高		①②⑨	
23	陳文祥	貴州	冶金	本	1912	1917. 7	1912-1916	二高		①②⑨	
24	金其重	江蘇	冶金	本	1912	1916. 7	1912-1915	八高		①②⑨	
25	邱(丘)其俊	広東	土木	本	1913		1913	四高		①②⑨	
			電気	本	1914	1917. 7	1914-1916				
26	彭作楷	湖南	機械	本	1913	1916. 12	1913-1916	八高		①②⑨	
27	鮑羽儀	湖北	造船 (船舶)	本	1913	1917. 12	1913-1917	五高		①②⑨	
28	胡 飛	江西	造船	本	1913	1917. 7	1913-1916	五高		①②⑨	
		江西		実習	1918		1918-1919		官 1918-1919	⑨	
29	李承幹	湖南	電気	本	1913	1916. 7	1913-1915	六高		①②⑨	
30	楊梓林	貴州	応用化学	本	1913	1917. 7	1913-1916	一高		①②⑨	
31	聶 俊	湖南	応用化学	本	1913	1916. 7	1913-1915	三高		①②⑨	
32	陳發榛	広東	土木	本	1914	1917. 7	1914-1916	五高		①②	
33	初兆琳		造船	本	1914		1914-1915			①	
34	傅式説	浙江	採鋇	本	1914	1918. 12	1914-1918	二高	官 1918	①②⑨	

35	潘國壽		造兵	選	1914		1914-1917			①	
36	李人傑	湖北	土木	本	1915	1918. 7	1915-1917	八高		①②	
37	李待琛	湖南	造兵	本	1915	1919. 7	1915-1918	一高	官 1918-1920	①②⑨	
				院	1919	砲用鋼ノ研究	1919-1920	東大工		①⑨	
38	鐘毓靈	広東	造兵	本	1915	1918. 7	1915-1917	二高		①②	
39	吳韶笙	四川	応用化学	本	1915	1918. 7	1915-1917	一高	官 1918-1920	①②⑨	
				院	1919	発酵工業ニ関スル事項	1919	東大工		①⑨	⑨実習
40	杜維常(巍)	山東	火薬	本	1915	1918. 7	1915-1917	三高		①②	① 1919 年から杜巍
	杜 巍	山東		実習	1918		1918		官 1918	⑨	
41(理 14)	林大勳(勲)	浙江	火薬	本	1915	1918. 7	1915-1917	二高		①②	理学部から工学部へ
42	楊俊生	江蘇	造船	本	1916	1920. 7	1916-1920	五高	官 1918-1920	①②⑨	
		江蘇		実習	1921		1921		官 1921	⑨	1921 年に実習
43	陳琦季	湖南	採鉱	本	1916	1919. 7	1916-1918	七高	官 1918-1920	①②⑨	②陳琦奇
44	劉友恵	福建	土木	本	1917	1921. 7	1917-1921	五高	官 1918-1920	①②⑨	
		福建		院	1921		1921	東大工	官 1921	⑨	
45	成 灝	湖南	造兵	本	1917		1917-1920		官 1918-1921	①⑨	
46	李敦化	広東	応用化学	本	1917	1920. 7	1917-1920	三高	官 1918-1920	①②⑨	
47	林恩溥	福建	応用化学	本	1917	1920. 7	1917-1920	二高	官 1918-1920	①②⑨	
48	董蔭青	奉天	土木		1917		(1917-1920)		官 1920	⑨	東京帝大工専 三年級
49	陳 珩	貴州	土木	本	1918	1921. 4	1918-1921	二高	官 1918-1921	①②⑨	
50	劉仁燮	江西	土木	本	1918	1921. 4	1918-1921	一高	官 1918-1921	①②⑨	
51	范致遠	江西	機械	本	1918	1921. 4	1918-1921	一高	官 1918-1921	①②⑨	
52	張維垣	奉天	造兵	本	1918	1922. 3	1918-1921		官 1918-1921	①⑨	
53	蕭根性	広東	応用化学	本	1918	1921. 9	1918-1921	二高	官 1918-1921	①②⑨	
54	劉駿業(愛其)	福建	採鉱	本	1918	1921. 4	1918-1921	五高	官 1919-1921	①②⑨	②劉愛其(旧劉駿業)
55	趙心哲	湖北	土木	本	1919	1922. 3	1919-1921	六高	官 1920-1921	①②⑨	
56	歐陽煥	江西	造兵	本	1919	1922. 3	1919-1921	八高	官 1919, 1921	①②⑨	
57	黄 壁	湖南	造兵	本	1919	1923. 3	1919-1922	三高	官 1920-1921	①②⑨	
58	李麗輝	湖南	造兵	本	1919	1922. 3	1919-1921	六高	官 1920-1921	①②⑨	
59	劉守愚	陝西	造兵	本	1919	1922. 3	1919-1921	二高	官 1919-1921	①②⑨	
60	王道周	四川	火薬	本	1919	1922. 3	1919-1921	八高	官 1920-1921	①②⑨	
61(理 24 : 医 102)	屠 模	江蘇		選	1919		1919	六高	官 1919-1921	③⑨	1920 年理学部へ
62	吳善培	江西		実習	1919		1919		官 1919	⑨	
63	朱士圭	江西		実習	1919		1919		官 1919	⑨	
64	王國香	吉林	造兵	本	1920	1923. 6	1920-1923		官 1921	①⑨	③では 1925 年に在籍
65(法 87)	陳世鴻	湖南	造兵	本	1920	1924. 5	1920-1924	三高	官 1921	①②⑨	
66	區 松		採鉱	本	1920		1920		官 1921	①	

67(理 21)	丘 琮	広東	採鉱	本	1920	1924. 3	1920-1923		官 1920-1921	①⑨	
				院	1924	南支那鉱床 及鉱物ノ研究	1924	東大工		③	
68	蕭仁昂	江西	採鉱 (鉱山)	本	1920		1920-1925			①③	③ 1925 年に鉱山 学科
69	陸志鴻	浙江	採鉱	本	1920	1923. 3	1920-1922	一高	官 1920	①②⑨	
70	張心沛	広西	冶金	本	1920	1924. 3	1920-1923	一高	官 1921	①②⑨	
71	高冠傑	陝西	鉱山	本	1921	1925. 7	1921-1925	三高	官 1921	①②⑨	
72	龔學遂	江西	鉱山	本	1921	1924. 3	1921-1923	五高		①②	
73	董 綸	江蘇	鉱山	本	1921	1924. 3	1921-1923	五高	官 1921	①②⑨	
		江蘇		院	1924	鋼材機械	1924-1925	東大工		③	
74	劉文藝	山西	鉱山	本	1921	1924. 3	1921-1923	四高	官 1921	①②④ ⑨	④採鉱
		山西		院	1924	石炭鉱床石 油地質	1924-1925	東大工		③	
75	凌霞新	湖南	鉱山	本	1921	1924. 6	1921-1924	八高		①②	
76	凌 飛	湖南	採鉱				<u>1921</u>		官 1921	⑨	1 年級
77	沈 璿	江蘇					<u>1921</u>		官 1921	⑨	1 年級
78	劉駟業		鉱山	本	1922		1922-1923			①	
79	施大雄	江蘇	火薬	本	1922		1922-1925	六高		①②⑨	
80	史允中 (仲)	安徽	鉱山	本	1922	1925. 6	1922-1925	松山		①②	②史中允
81	周日省	浙江	鉱山	本	1922	1925. 7	1922-1925	三高		①②	
82	蕭篤先	江西	鉱山	本	1922	1925. 6	1922-1925	六高		①②	
83	王家俊	浙江	造兵	本	1923	1927. 3	1923-1926	六高		①③	
				院	1927	特殊兵器	1927	東大工	補 1927	①③	
84	黄慈仁		鉱山	本	1923		1923			①	
85(理 29)	鄭萬言	四川	鉱山	本	1923	1926. 3	1923-1925	六高		①②③	卒業後理学部大学 院へ ③奉天
86	陳功成	湖南	冶金	本	1923	1927. 3	1923-1926	一高		①②③	
				院	1927	鉛ト亜鉛ノ 交代鉱床	1927	東大工	補 1927	①③	
87	林清許	広東	機械	本	1924	1927. 3	1924-1926	一高		①②③	
88	趙福靈	広東	土木	本	1924	1927. 3	1924-1926	一高		①②③	
				院	1927	橋梁	1927	東大工	補	①	
89	何亜東	安徽	鉱山		1924		1924-1925			③	
90	謝光遠	江西	鉱山及冶 金	本	1925	1929. 3	1925-1928	七高	補 1927-1928	①②③	
91	周道隆	湖南	鉱山及冶 金	本	1925	1929. 3	1925-1928	八高	補 1927-1928	①②③	
92	陳德溥	貴州	鉱山及冶 金	本	1925	1928. 7	1925-1928	三高		①②	
93	馬 進	陝西	鉱山及冶 金	本	1925	1929. 3	1925-1928	二高	補 1927-1928	①②③	
94	劉士毅	江西		聴	1925		<u>1925</u>			③	
95	周元哲	陝西		聴	1925		<u>1925</u>			③	

96	高元良	奉天	火藥	本	1926	1929. 3	1926-1928	三高	自 1927-1928	①③	
				院	1929	鉦山爆藥ニ就イテ	1929	東大工	補 1929	①③	
97	張 耀	廣東	船舶	本	1926	1929. 3	1926-1928	一高	自 1927-1928	①②③	
文（文科大学・文学部）59 人											
1	陸 輔	江蘇	哲	選	1905		1905-1911		自 1909	①⑧	
2	藍公武	廣東	哲	選	1906		1906-1910		官 1909	①⑧	
3	蕭友梅	廣東	哲	選	1906		1906-1908		官 1909	①⑧	
4	夏錫祺	江蘇	文				(1906-1909)		自 1909	①⑧	3 年級
5	曹位康	浙江	史	選	1906		1906-1909		官 1909	①⑧	
6	張玉濤	廣東	文	選	1906		1906			①④	
7	王桐齡	直隸	史	本	1908		1908-1912	一高	官 1909	①⑥⑧	京師大学堂派遣
		河北	東洋史	本	1921	1922. 3	1921		官 1921	①②⑨	再入学
8	周清任		史	選	1908		1908			①	
9	陳大齋 (齊)	浙江	哲	本	1909	1912. 7	1909-1911	二高		①②⑧	
10	劉家愉	江蘇	文	本	1909		1909-1913			①⑧	
11	羅作民	廣東	哲	選	1909		1909-1911			①⑧	
12	馬柏藻	浙江	哲	選	1909		1909-1911			①⑧	
13	胡以魯	浙江	文	選	1909		1909-1910			①⑧	
		浙江	文	本	1911	1912. 7	1911			①②	
14	張 紱	浙江	哲	選	1909		1909-1914			①④	④ 1909-1914
15	章欽欽 章欽亮	江蘇	史	選	1910		1910-1911			①④	④章欽亮, 1910-1913 年に在籍
			史	選			1912				
16	何振權	雲南	哲	選	1911		1911			①④	
17	顏澤祺	廣東	哲	選	1911		1911			①④	④惠州府
18	向瑞節		史	選	1911		1911			①	
19	陸 輔	江蘇	文	選	1911		1911			①④	
20	王容善		文	選	1911		1911			①	
21	周清儔		文	選	1911		1911			①	
22	戴 夏	浙江	哲	選	1912		1912			①④	
23	羅奇安	廣東	哲	選	1913		1913-1916			①⑨	
24	朱章寶	浙江	哲	選	1913		1913-1916			①⑨	
25	蔡 允	江蘇	史	選	1913		1913			①④	
26	藩(潘) 炳華	江蘇	文	選	1913		1913			①④	
		江蘇	哲	選			1914-1919		官 1918-1919	①④⑨	
27	林茂生		哲	本	1914		1914			①	
28	許崇清	廣東	哲	本	1914	1918. 7	1914-1917	七高		①②	
				院	1918	修身教授	1918-1920	東大文	官 1918-1920	①⑨	
29	趙錄翰	山東	哲	本	1915	1918. 7	1915-1917	八高		①②	
30	黃 武	廣東	史	本	1915		1915-1920	四高	官 1918-1921	①②⑨	
31	黃 鏞	江西	哲	本	1916	1919. 7	1916-1918	一高	官 1918-1919	①⑨	
32	范壽康	浙江	哲	本	1918	1922. 3	1918-1921	一高	官 1918-1921	①⑨	

33	劉侃元			選	1919		1919		自 1919	①⑨	
		湖南	美	本	1920	1924. 3	1920-1923	二高	官 1920-1921	①②⑨	
		湖南		院	1924	造形芸術ニ就テ	1924-1925	東大文		①③	
34	林大經	浙江		選	1919		1919-1920		自 1919	①⑨	
35	何 畏	浙江	社	本	1920	1925. 3	1920-1924	二高	官 1920-1921	①②⑨	
				院	1925	社会学説の研究	1925-1926	東大文		①③	
36	黄光斗	江西	教	本	1920	1923. 3	1920-1922	二高		①②	
				院	1923	職業教育	1923-1923	東大文		①	
37(法 83)	張有桐			選	1920		1920-1921			①④	
		江西	社	本		1923. 3	1922	一高		①②④	卒業後法学部へ
38	鄭聰貽	福建		聴	1921		1921-1925		官 1921 補 1924-1925	③⑨⑩	③ 1921 年 3 月 入学
39	周錫夔 (夔)	雲南	教	本	1922	1925. 3	1922-1924	三高		①②④	②④周錫夔
	周錫夔	雲南		院	1925	教育学の原理	1925-1927	東大文	自 1927	①③	
40(経 8)	郁 文	浙江		本	1922		1922-1925	東大経		③④	経済学士
41	陳堯成	湖北	教	本	1922	1926. 3	1922-1925	八高		①②③	
		湖北		院	1926	教育学ノ性質	1926-1928	東大文	自 1927	①③	
42	何秉堯	広東		本	1923		1923-1925			①③	
43	周達宣	貴州	教	本	1923		1923-1927	八高		①③④	④ 1923-1927. 死亡
44	張忠道	安徽		本	1923		1923-1925			①③	
45	董德銘	吉林	社	本	1923	1926. 3	1923-1925			①③	
		吉林		院	1926	支那民族ノ国家思想	1926-1928	東大文	補 1927	①③	
46(法 93)	范 揚	浙江		本	1923		1923-1925			①④	1925 年法学部へ
47	穆敬熙	吉林	仏	本	1923	1926. 3	1923-1925			①③	
48	羅鴻詔	広東	哲	本	1923	1926. 3	1923-1925	八高		①②③	②哲学科
				院	1926	実在ニ就イテ	1926-1928	東大文	補 1927	①③	
49	朱得安	浙江	社	本	1924	1927. 3	1924-1926	八高		①②③	
50	李白華	広東	印度哲	本	1924	1930. 3	1924-1929	八高	官 1927-1929	①②③	
		広東		院	1930	支那仏教ノ社会的機能ニ就イテ	1930-1931	東大文	官 1931	①③	
51	馮乃超	広東	美	本	1925		1925-1928	八高		①③	
52	陳懋烈	江蘇	哲・教	本	1925	1929. 3	1925-1928	五高	補 1927 補・官 1928	①②③	
53	鄧深澤	湖南	社	本	1925	1928. 3	1925-1927	八高	補 1927	①②③	
				院	1928	社会学ニ於ケル開心説ニ付イテ	1928-1930	東大文	選・官 1928 ; 選 1930	①③	



54	羅 理	江西	東洋史	本	1926	1932. 3	1926-1931	一高	官 1927-1929 補 1930-1931	①②③	
55	苗呈實	奉天	社	本	1926		1926-1931	一高	官 1927-1929 自 1930 補 1931	①③	
56	鄭 疇	福建	教	本	1926		1926-1928	松山高	官 1927-1928	①③	
57	馬宗榮	貴州	教	本	1926	1929. 3	1926-1928	八高	補 1927-1928	①②③	
				院	1929	図書館教育 ノ研究	1929	東大文	選 1929	①③	
58	毛文麟	浙江	言語	本	1926	1929. 3	1926-1928	八高	官 1927-1928	①②③	
				院	1929	言語ト社会 状態トノ関係	1929-1930	東大文	官 1929-1930	①③	
59	程 衡	直隸・ 河北		院	1926	カントノ現 代哲学	1926-1930	北京大	補 1927-1928, 選・官 1929, 選 1930	①③	
理（理科大学・理学部）33 人											
1	黄以仁	江蘇	化	選	1904		1904-1905			①④	① 1906 年に記録 なし
		江蘇	植	選	1907		1907-1909		官 1909	①④⑧	④修了
2	顧 琅	江蘇	化	選	1905		1905-1908		官 1908	①④⑧	④修了
3	虞銘新	浙江	化	選	1905		1905-1908		自 1908	①④⑧	④修了
4	伍崇雋		動植	選	1905		1905			①	
5	蘇振潼	江蘇	物	本	1908		1908-1909	一高	官 1909	①⑥⑧	京師大学堂派遣
6	胡濬濟	浙江	物	本	1908		1908-1909	一高		①⑧	
7	史錫緯	四川	物	本	1908		1908-1909	一高	官 1909	①⑥⑧	京師大学堂派遣
8	景定成	山西	化	本	1908		1908-1909	一高	官 1909	①⑥⑧	京師大学堂派遣
9	章鴻釗	浙江	地質	本	1908	1911. 7	1908-1910	三高	官 1909	①②⑧	
10	蔡鍾瀛	湖南	理論物理	本	1912	1915. 7	1912-1914	二高		①②⑨	
11	呉續祖	直隸	植	本	1912	1915. 7	1912-1914	二高		①②⑨	②湖北
12	呉道南	湖北	実験物理	本	1913	1917. 7	1913-1916	六高		①②⑨	
13	何良藻	広東	化	本	1913		1913-1915			①⑨	
14(工 41)	林大勲	浙江	星	本	1914		1914	二高		①②	1915 年工学部へ
15	柳金田		理論物理	本	1914		1914-1916			①	
		広東	実験物理	本		1919. 7	1917-1918	六高	官 1918-1920	①②⑨	
		広東		院	1919	気象学	1919-1920	東大理		①⑨	
16	何邦著		数学科	本	1915		1915-1917			①	
17	文元模	貴州	実験物理	本	1915	1920. 7	1915-1919	一高	官 1918-1920	①②⑨	
18	周昌壽	貴州	実験物理	本	1915	1920. 7	1915-1919	四高	官 1918-1920	①②⑨	
19	趙修乾	福建	理論物理	本	1916	1919. 7	1916-1918	三高	官 1918-1919	①②⑨	
20	董 常	江蘇	地質	選	1916		1916-1918			①④	④修了
21(工 67)	丘 琮	広東	物	本	1919		1919			①⑨	1920 年工学部へ
22	張資平	広東	地質	本	1919	1922. 3	1919-1921	五高	官 1920-1921	①⑨	
23	王 謨		地理	選	1919		1919			①	
		四川	地理	本	1920	1922. 3	1920-1921	東京高師	官 1920-1921	①⑨	

24(工 61 ; 医 102)	屠 模	江蘇	化	本	1920		1920-1921	六高	官 1919-1921	①③⑨	1923 年医学部へ
25	沈 璿	江蘇	天文	本	1921	1924. 3	1921-1923	一高		①②	②沈璿
				院	1926	天体力学	1925-1926	東大理		①	
26	費鴻年	浙江	動		1922		1922-1925			③	
27	林式增	湖南	数	本	1923		1923			①	
28	徐玉相	浙江	天文	本	1924	1931. 3	1924-1930	八高	自 1927-1928, 補 1929-1930	①②③	
				院	1931	実地天文学	1931-1932	東大理		①	
29(工 85)	鄭萬言	東大工		院	1926	支那の地質	1926	東大工		①	工学士, 工学部から
30	羅雄才	広東	化	本	1926	1929. 3	1926-1928	一高	自 1927-1928	①②③	
31	黃士弘	広東	地質	本	1926	1929. 3	1926-1928	山形	自 1927-1928	①②③	
				院	1929	鉱床地質学	1929-1931	東大理		①	
32	蔡源明	江西	地理	本	1926	1929. 3	1926-1928	松山	自 1927	①③	
33	張定釗	江西		院	1926		(1926-1930)	京大理	補 1927-1928, 遷 1929-1930	①②③	
農（農科大学・農学部）63 人（実科の留学生を含まない）											
1	金邦平	安徽	農	聴講生	1899		1899	日華学堂		④⑦	1990 年東京専門学校へ
2	姚志光	浙江	農芸化	聴講生	1901		1901			④	
3	王舜成	江蘇	農	選	1908		1908-1910	一高	官 1909	①⑥⑧	京師大学堂派遣
		江蘇	農	本		1912. 7	1911			①②	
4	吳宗拭	浙江	農芸化	選	1908		1908-1910	一高	官 1909	①⑧	
		浙江	農芸化	本		1912. 7	1911			①②	
5	黃藝錫	江蘇	農芸化	選	1908		1908-1910	一高	官 1909	①②⑥⑧	京師大学堂派遣
6	朱炳文	山東	農芸化	選	1908		1908-1911	一高	官 1909	①②⑥⑧	京師大学堂派遣
		山東	農芸化	本		1913. 7	1912			①②	
7	成 稿 (稿)	蒙古	農芸化	選	1908		1908-1910		官 1909	①②⑥⑧	京師大学堂派遣
		蒙古	農芸化	本		1912. 7	1911	一高		①②	⑥成隽
8	周慶慈	山西	獣医	聴	1909		1909			④⑧	
9	許 璇	浙江	農	本	1910	1913. 7	1910-1912	三高		①②	
10	陳彰海		農	選	1912		1912-1913			①	
		四川	農	本		1915. 7	1914	三高		①②⑧	
11	柳汝祥	広東	農	本	1913	1917. 7	1913-1916	四高		①②⑧	
12	楊景輝	湖南	農	本	1913	1916. 7	1913-1915	七高		①②	
13	孫宗浩	浙江	農芸化	本	1913	1916. 7	1913-1915	一高		①②⑧	
14	梁 希	浙江	林	本	1913	1916. 7	1913-1915	八高		①②⑧	
15	侯 度		農	選	1913		1913			①	
		広東	林	選	1913		1914-1915			①⑧	
16	龐 斌	江蘇	獣医	選	1913		1913-1915			①④	
17	汪傳禎	江蘇	農	本	1914	1917. 7	1914-1916	七高		①②⑧	
18	張謙吉	江蘇	農	本	1915	1919. 7	1915-1918	七高	官 1918-1919	①②⑨	

19	林 驤	福建	林	本	1915	1920. 7	1915-1920	五高	官 1918-1920	①②⑨	
20	楊 凱 (学愷)	四川	農芸化	本	1916	1919. 7	1916-1918	三高	官 1918-1919	①②⑨	②楊学凱
	楊学愷			院	1919	生理化学	1919-1920	東大農	官 1919-1921	①②⑨	
21	蔣繼尹	広西	農芸化	本	1916	1919. 7	1916-1918	一高	官 1918-1919	①②	
22	尉鴻謨	山東	水産	本	1916	1919. 7	1916-1918	二高	官 1918-1919	①②⑨	
							1919		官 1919	⑨	水産, 巡歴
23	沈觀鼎	福建	農	本	1917	1920. 7	1917-1920	八高	官 1918-1920	①②⑨	
		福建		院	1920	農政学一般	1920-1921	東大農		①④⑨	
24	何品良	広東	農 第 1 部	本	1917	1921. 4	1917-1921	八高	官 1918-1920	①②⑨	
25	顧 復	江蘇	農	本	1917	1920. 7	1917-1920	八高	官 1918-1920	①②⑨	
26	丁 穎	広東	農 第 1 部	本	1919	1924. 3	1919-1923	五高		①②	
27	汪厥明	浙江	農 第 1 部	本	1920	1923. 4	1920-1923	五高	官 1921	①②⑨	
				院	1923	育種学	1923-1925	東大農		①	
28	陳学庭		農 第 2 部	本	1920		1920			①	
29(法 86)	陳覚生	広東	農 第 2 部	本	1920	1923. 4	1920-1923		官 1921	①②⑨	
				院	1926	支那農業経営ノ改善ニ就イテ	1926-1928	東大法・農	補 1927-1928	①③	1923 年から経済学部へ
30	曹益謙	山西	林	実習	1921		1921		省補助 1921	⑨	
31	黄秉中	山西		実習	1921		1921		官 1921	⑨	養蚕
32	周聲漢	湖南	農 第 1 部	本	1922	1925. 3	1922-1924	六高		①②	
33	歐陽恒	広東	農芸化	本	1922		1922-1923			①④	
34	任慶九	直隸	農	選	1922		1922-1923			④	
35	沈敦輝	広東	農 第 1 部	本	1923	1926. 3	1923-1925	二高		①②③	
				院	1926	実験遺伝学 特ニ蚕ノ繭層量ノ遺伝	1926-1928	東大農	補 1927-1928	①	
36	丁貞吉	湖南	農 第 1 部	本	1923	1927. 3	1923-1926	松山		①②	
37	李中学	湖北	農 第 1 部	本	1923	1927. 3	1923-1926	三高		①②	
38	林 騰		農 第 2 部	本	1923		1923			①	
39	王兆澄	安徽	農芸化	本	1923	1926. 6	1923-1926	八高		①②	
		安徽		院	1927	皮蛋 (支那料理ノ一種)	1927-1929	東大農	補 1927-1928 選 1929	①③	
				院	1937	中国食品ニ関スル化学的研究	1937	東大農		①	

40	葛志元	浙江	農芸化	本	1923	1926. 3	1923-1925	五高		①②	
41	高 銓	浙江	農芸化	本	1923	1926. 3	1923-1925	五高		①②	
				院	1926	発酵及醸造	1926	東大農		①	
42	馮浩元	広東	農芸化	本	1923		1923			①④	
43	馮子章	広東	農芸化	本	1923	1927. 3	1923-1926	六高	補 1927 官 1928	①②	
				院	1927	生物化学	1927-1928	東大農		①③	
44	林葆騰	福建	農 第 2 部・ 農業経	本	1923	1927. 3	1923-1926	六高		①②	
		福建		院	1927	農業政策	1927	東大農	補 1927	①③	1928 年から経済 学部へ
45	劉重炬	江西	農 第 1 部	選	1923		1923			①④	
46	張清鑑	江西	林	選	1923		1923			①④	
47	戴 弘	浙江	農芸化	本	1924	1927. 3	1924-1926	一高		①②	
48	徐紹郷	奉天	農芸化	本	1924	1927. 3	1924-1926			①④	②記録なし
49	陳慶餘	広東	農 第 1 部	本	1924	1927. 3	1924-1926			①②③	②出身校記録なし
				院	1927	乳牛及酪農 方面ニ就イ テ	1927-1928	東大農	補 1927-1928	①③	
50	楊著誠	湖南	農	本	1924	1927. 3	1924-1926	五高		①②③ ④	
51	戴本中	浙江	農 第 2 部	本	1924	1928. 3	1924-1927	六高	補 1927	①②③	①農業経済学科卒 ②農学科卒
				院	1928	農村社会問 題	1928-1929	東大農	官 1928	①③	
52	蔣思道	江西	農芸化		1924		1924-1926			④	
53	安集雲	奉天	農	本	1925	1928. 3	1925-1927	六高	補 1927	①③	
54	沙 俊	江蘇	農	本	1925	1928. 3	1925-1927	一高	補 1927	①②③	
				院	1928	豚飼育ノ一 般	1928	東大農		①	
55	鄒序儒	湖南	農	本	1925	1928. 3	1925-1927	五高	補 1927	①②③	
56	沈光史	浙江	農	本	1925	1928. 3	1925-1927	四高	補 1927	①②③	
				院	1928	河川	1928	東大農		①	
57	劉信春	奉天	農業経	本	1925	1928. 3	1925-1927	八高	補 1927	①③	
				院	1928	産業組合	1928-1930	東大農	官 1928 選 1929 補 1930	①③	
58	權仲觀	吉林	農業経	選	1925		1925			①④	
59	陳振鐸	福建	農芸化	本	1926	1929. 3	1926-1928	一高	補 1927 自 1928	①③	
60	李達才	江西	林	本	1926	1929. 6	1926-1929	八高	補 ① 927-1928	①③	
61	王益滔	浙江	農業経	本	1926	1929. 3	1926-1928	一高	補 1927 官 1928	①②③	
				院	1929	農村問題	1929-1930	東大農	官 1929-1930	①③	

62	周進三	浙江	農業経	本	1926	1929. 3	1926-1928	四高	補 1927-1928	①②③	
				院	1929	農業統計	1929	東大農	選 1929 補 1930	①③	
63	莊奕馨	福建	農業経	本	1926	1929. 3	1926-1928	六高	補 1927 官 1928	①②③	
				院	1929	農業政策	1929	東大農	選 1929 補 1930	①③	
経（経済学部）57 人											
1(法 60)	周宏平	湖南	経	本	1915	1920. 7	1915-1920	四高	官 1918-1921	①②⑨	法科大学から
2(法 64)	費敏士	江蘇	商	本	1917	1920. 7	1917-1920	七高	官 1918-1920	①②⑨	法科大学から
				院			1921	東大経	官 1921	⑨	
3(法 67)	郭 煥	直隸	経	本	1918		1918-1923		官 1920-1921	①⑨	法科大学から
4(法 68)	韓秉端	直隸	商	本	1918	1925. 3	1918-1924	二高	官 1920	①②⑨	法科大学から
5(法 69)	閔星熒	江西	商	本	1918	1921. 6	1918-1921	四高	官 1918-1921	①②⑨	法科大学から
6	孫延弼	江西	商	本	1918	1921	1918-1921			④	①記録なし
7(法 59)	羅 鼎			院	1918	貨幣銀行論	1918-1919	東大法		①	法科大学大学院から
8(文 41)	郁 文	浙江	経	本	1919	1922. 3	1919-1921	八高	官 1918-1921	①②⑨	卒業後文学部へ
9(法 88)	張 操	広東	経	本	1919	1924. 4	1919-1924	六高	官 1920-1921	①②⑨	卒業後法学部へ、 同学部卒業後、経 済学部大学院に
				院	1926	統計学	1926-1928	東大経	補 1927	①③	経済学士・法学士
10	陶 仲	四川	経	本	1919	1925. 3	1919-1924	五高	官 1919-1921	①②⑨	
				院	1926	統計学	1926-1927	東大経	補 1927	①③	
11	毛 綸	湖南	経	本	1919	1922. 3	1919-1921	二高	官 1919-1921	①②⑨	②毛編
		湖南		院	1922	銀行論	1922-1925	東大経		③	
12	羅 浩	広東	経	本	1919	1923. 6	1919-1923	五高	官 1920-1921	①②⑨	
13	李暉陽	雲南	経	本	1919	1923. 6	1919-1923	五高	官 1919-1921	①②⑨	
				院	1923	貨幣銀行論	1923-1925	東大経		①③	
14	董毓舒	黒竜江	経	本	1919	1922. 6	1919-1922		官 1919-1921	①⑨	
15	袁錦泉	広東	商	本	1919	1922. 3	1919-1921	七高	官 1920-1921	①②⑨	
16	閻傳紱	奉天	経	本	1920	1923. 3	1920-1922		官 1920-1921	①⑨	
17	殷(段) 汝劭	浙江	経	本	1920	1923. 3	1920-1922	一高	官 1921	①②⑨	
18	王佐臣	陝西	経	本	1920	1923. 6	1920-1923	二高	官 1921	①②⑨	②王佐民
19	郭 彝 (樊)民	吉林	経	本	1920	1923. 3	1920-1922		官 1921	①④⑨	
20	危誥生	湖北	経	本	1920	1923. 3	1920-1922	八高	官 1921	①②⑨	
				院	1923	財政学	1923-1925	東大経		①③	
21	耿熙旭	奉天	経	本	1920	1923. 3	1920-1922	二高	官 1920-1921	①⑨	
22	車乘驛	江西	経	本	1920	1923. 3	1920-1922	八高	官 1921	①②⑨	
23	林雲騰	福建	経	本	1920		1920-1923	四高	官 1921	①⑨	
24	王大楨	湖南		聴	1920		1920-1925			③	大正 9 年 9 月入学
25	邵金鐸			聴	1920		1920-1925			③	大正 9 年 9 月入学
26(法 90)	何競存	湖北	経	本	1921	1924. 4	1921-1924	一高	官 1921	①②⑨	卒業後法学部へ

27	何庭鏞 (流)	陝西	經	本	1921	1924. 4	1921-1924	六高	官 1921	①②⑨	
				院	1924	財政学	1924-1927	東大経	官 1927	①③	
28	史太璞	安徽	經	本	1921	1924. 4	1921-1924	八高	官 1921	①②⑨	
29	蕭壽民	雲南	經	本	1921	1924. 4	1921-1924	七高	官 1921	①②⑨	
30(法 89)	朱應會	湖南	經	本	1921	1924. 6	1921-1924	五高	官 1921	①②⑨	卒業後法学部へ
				院	1927	貨幣銀行論	1927	東大法 (未卒)	自 1927	①③	経済学士, 法学部 から
31	朱雲楷	広東	經	本	1921	1924. 6	1921-1924		官 1921	①②⑨	
32	張源祥	安徽	經	本	1921		1921-1923	一高	官 1921	①④⑨	④京都帝大に転学
33	陶 因	安徽	經	本	1921		1921-1926		官 1921	①③④ ⑨	
34	楊學穎	四川	經	本	1921	1924. 4	1921-1924	二高	官 1921	①②⑨	⑨楊学頼
35	李乾元	雲南	經	本	1921	1924. 4	1921-1924	五高	官 1921	①②⑨	
		湖南		院	1925	国際金融	1925	東大経		③	
36	林國珪	浙江	經	本	1921	1924. 4	1921-1924		官 1921	①②	②林國桂
37	張 籍	四川	經	本	1922	1925. 3	1922-1924	四高	官 1921	①②⑨	
		四川		院	1925	財政学	1925-1926	東大経		①③	
38	彭學沛		經	本	1922		1922-1923			①	
39	林振成	福建	經	本	1922	1925. 3	1922-1924			①②	
40	王籍田	陝西	商	本	1922	1926. 3	1922-1925	八高		①②	
		陝西		院	1926	商事経営学	1926-1927	東大経	補 1927	①③	
41	曾広駒	広東	商	本	1922		1922-1923			①③	
42	張學載	陝西	商	本	1922	1925. 3	1922-1924			①②	
				院	1925	商業数学	1925-1926	東大経		①③	
43	李德釗	江西	商	本	1922	1925. 3	1922-1924	八高		①②	
				院	1926	銀行論	1926	東大経		①	
44	孫祖蔭	江西	經	本	1923	1926. 3	1923-1925	六高		①②③	
				院	1926	財政ト金融 トノ関係	1926	東大経		①	
45	苑乃安	奉天	商	本	1923	1926. 3	1923-1925			①③	
46	徐鈞溪	浙江	商	本	1923	1926. 3	1923-1925			①②	
				院	1926	財政ト金融	1926	東大経		①	
47	陳仲梅	雲南	商	本	1923		1923			①③	
48	張傑東	広東	商	本	1923	1926. 3	1923-1925	松山		①②	
				院	1926	財政ト金融	1926-1927	東大経	補 1927	①③	
49	陳開先	雲南	商	本	1923	1927. 3	1923-1926			①②④	
		雲南		院	1927	国際金融	1927	東大経	補 1927	①③	
50	黄懋仁	江西	商	本	1924	1927. 3	1924-1926	六高		①②	
51	沈文華	福建	商	本	1924	1927. 3	1924-1926			①②	
		福建		院	1927	統計学	1927-1928	東大経	補 1927-1928	①③	
52	薛永魁	福建	商	本	1924	1927. 3	1924-1926			①②	
		福建		院	1927	財政学	1927-1928	東大経	補 1927-1929	①③	
53	丁理華	貴州	商	本	1924	1928. 3	1924-1927	三高	補 1927	①②③	
		貴州		院	1928	社会政策	1928-1929	東大経	補 1928-1929	①③	
54	袁學海	湖南		院	1924	国際金融論	1924-1927	京大卒		①④	



55	蔡鳴時	陝西	商	本	1925	1928. 3	1925-1927	五高	補 1927	①②③	
		陝西		院	1928	銀行論	1928-1929	東大経	補 1928-1929	①③	
56	鄭名信	奉天	商	本	1926	1929. 3	1926-1928	一高	補 1927-1928	①③	
		奉天		院	1929	中央銀行	1929	東大経	補 1929	①③	
57	陳 隆	広東	商	本	1926	1929. 6	1926-1929	八高	補 1927 自 1928	①②③	

出典：①『東京帝国大学一覧』『東京帝国大学要覧』各年版：「学生（及）生徒姓名」、「卒業生姓名」及び東京帝国大学『東京帝国大学卒業生氏名録』1939年。

②興亜院『日本留学中華民国人名調』1940年：「東京帝国大学」、「第一高等学校」～「第八高等学校」。

③財団法人日華学会『東京在住中華民国留学生名簿』大正14年11月現在：「東京帝国大学」；財団法人日華学会学報部『留日中華学生名簿』（3度の改称あり）各年版：「東京帝国大学」。

④「本邦留学満洲国及中華民国学生ノ帰国後ニ於ケル状況調 調査掛」参照コード：S0008/SS4/01，年代域：1906（明治39）年—1937（昭和12）年4月，東京大学文書館所蔵。

⑤さねとうけいしゅう（実藤恵秀）『中国留学生史談』第一書房，1981年，36-102頁。

⑥「狩野亨古文書 清国留学生関係文書」東京大学駒場図書館所蔵：「留学生の名簿」「清国京師大学堂派定留学生ニ関スル書類」付「清国京師大学堂留学生ニ関スル第一年報告書 下書」。

⑦樂殿武・柴田幹夫編著『日華学堂とその時代 中国人留学生研究の新地平』武蔵野大学出版会，2022年：「日華学堂日誌」，胡穎「日華学堂の経営及び経費管理」；王鼎の「日華学堂と自立軍蜂起——「庚子革命烈士之墓」を訪ねて」。

⑧清国游学生監督処『官報』（全12冊），国家図書館出版社，2009年：「東京大学本屆畢業生履歷表」光緒34（1908）年6月，第19期，25頁；「東京帝国大学在学各生最近調査表」宣統元（1909）年閏2月，第28期，22-23頁；「東京帝国大学游学生姓名籍貫入学年分学科成績表」宣統元（1909）年9月，第35期，20-29頁。

⑨中華民国留日学生監督処『中国留日学生監督処文獻』早稲田大学図書館所蔵：17「第一次留学生調査報告書」第1冊，大正3年7月—9月調査；24「帝国大学在学生名冊」民国7年7月調査；25「本所（監督処）管理之各省官費生名冊」民国7年8月；26「（民国）7年度秋季各經理処報告官費生一覧」；28「留日官費生総冊」民国8年4月調査；32「民国8年各帝大在学生冊」中華民國8年10・11月（法，農しか費別記録なし）；34「民国8年春季各官費生名冊」；36「8年11月本処直轄官費生冊」民国8年11月；37「8年度官費生名冊」民国8年9月；39「9年度留日官費生総冊」4月調査；45「10年4月官費生調査表」。

⑩拙論「帝国大学における中国人女子留学生（1924-1944年）——データ解読と事例分析——」神奈川大学人文学研究所《人文学研究所報》No. 68，2022年9月，45-62頁。

付録：「明治大正期（1899-1926年）東京帝国大学各分科大学・学部 of 中国人留学生統計表」 単位：人

	1899	1900	1901	1902	1903	1904	1905	1906	1907	1908	1909	1910	1911	1912	1913	1914	1915	1916	1917	1918	1919	1920	1921	1922	1923	1924	1925	1926	計
法 94									4																				
本科生																													
大学院生																													
選科生	1						13	9	4																				32
不明																													1
合計	1						13	9	4																				1
大学院進学																													
本科生	1							1																					19
大学院生										1																			13
不明																													1
合計	1							1																					1
医 123																													
本科生																													
大学院生																													
選科生																													
専攻生(専科)																													
研究(生)																													
実習																													
合計																													
大学院進学																													
本科生																													
大学院生																													
選科生	8							1																					14
実習																													2
聴講生																													2
不明																													4
合計	8							1																					97
大学院進学																													11
本科生																													31
大学院生																													1
選科生																													25
聴講生																													1
不明																													1
合計																													1
大学院進学																													59
本科生																													12
大学院生																													24
選科生																													2
不明																													6
合計																													1
大学院進学																													33
本科生																													4
大学院生																													46
選科生																													3
聴講生	1																												2
実習																													63
合計	1																												2
大学院進学																													17
本科生																													53
大学院生																													1
選科生																													2
聴講生																													57
合計																													22

注：のべ人数の統計（526人）であり、実数は507人である。他学部の大学院に進学した者は「大学院生」で数えたので、「大学院進学」には含まれていない。

# 東京帝国大学的中国留学生

## ——以明治大正期（1899-1926 年）入学者为主要分析对象——

周一川

### 要旨

明治大正时期有超过 500 名（累计人数 526 名，实际人数 507 名；不包括农科大学・农学部实科的学生）的中国留学生在东京帝国大学的各分科大学・学部就读。东京帝国大学最早的中国留学生是 1899 年入学的 9 名选科生和 1 名听讲生。

明治时期中国留学生中选科生占压倒多数。选科生制度为没有本科入学资格（日本高中毕业）的留学生提供了进入东京帝大学习的机会。大正时期留学生的身分构成发生了变化，本科生迅速增加，其原因是“五校特约生”的入学。他们在日本的高中毕业后升学帝大，这一现象一直持续了十余年，引发了第一次中国人帝大留学的高潮（第二次在 30 年代中期）。

清末民初的中国正处在内忧外患，改革・革命运动此起彼伏，推翻帝政建立共和的动荡时期。当时的留日学生积极参与改革・革命运动，为辛亥革命的胜利做出了重要的贡献。不仅如此，从他们回国后的轨迹可知，此时期的帝大留学生用所学到的近代知识，在不同的领域为共和国的建设和近代化的发展也做出了杰出的贡献。

日本的最高学府东京帝大是培养日本精英人才的教育机构，从留学教育的角度来看，此时期的东京帝大也承担了培养中国近代化人材的角色。

キーワード：东京帝国大学；中国人留学生；日华学堂；京师大学堂；五校特约